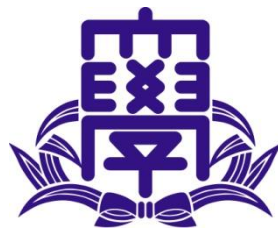


F D活動報告書

第 15 号 (2019 年度)

関西大学大学院会計研究科
(会計専門職大学院)



関西大学大学院会計研究科

教務・F D委員会

2020 年 3 月

目 次

はじめに	1
I 授業評価アンケートの実施及びフィードバック方法	
(1) 対象科目	2
(2) 実施方法	2
(3) 分析方法	2
(4) フィードバック方法.....	2
(5) 対象科目リスト.....	3
II 2018 年度授業評価アンケートフォーム.....	7
III 2018 年度授業評価アンケート結果概要	
(1) 2018 年度授業評価アンケート（春学期）結果概要.....	11
(2) 2018 年度授業評価アンケート（秋学期）結果概要.....	41
(3) 2018 年度授業評価アンケート総括.....	73
IV 講演会	77

はじめに

関西大学大学院会計研究科は、創設以来、10 年間を超えて国際会計士連盟（International Federation of Accountants: IFAC）による会計専門職の国際教育基準（International Education Standards: IES）に準拠した会計専門職教育を行ってきた。この 10 年以上の期間において、教育体制、カリキュラム、ならびに教育内容・方法など常に研究科として主体的に見直し、改善を試みている。また、個々の教員においても、それぞれが自己研鑽を繰り返し、最善の教育内容と最高の教育効果を目指して取り組んでいる。このような取り組みを組織的に行っているのが、FD(Faculty Development)活動であり、この FD 活動を推進してきたのが教務・FD 委員会およびその下部組織としての専攻分野別教務・FD 委員会である。この FD 活動報告書は、FD 活動の一環として作成しており、本研究科における会計専門職教育を継続的に進化・発展させるうえで大きな役割を果たしている。

本研究科では、この FD 活動によって、教員の教育能力および教育の質を高め、教育効果を向上せしめるべく、不断の努力を行っている。教育効果は、単に教員がよりよいと思う教育内容を、教員がよりよいと思う方法で提供するように策を講じるだけでは、改善されない。すなわち、提供される教育への学生の反応を認識しつつ、教育内容やその方法を調整していくことで、より効果的な教育が提供できるようになると考えられる。そのため、本研究科では、設立当初より、学生による授業評価アンケートを実施、公表してきており、この授業評価アンケートの結果は、FD 活動の大きな柱の一つとなっている。

本研究科の授業評価の特徴は、①学生自身による自己評価と学生による担当者の授業評価という一般的事項はもれなく含んでいること、②学生による授業評価の結果に対しては担当教員による分析と授業改善の試みを記述させること、③教務・FD 委員長による当該年度の教育内容全体に関する自己点検と総括がなされていること、ならびに④それらの結果を、教授会及び FD 委員会での議論の材料としていること、⑤そして授業評価の結果と分析等を本研究科のホームページにて公開していること、が挙げられる。

FD 活動報告書は、上記の学生による授業評価アンケートの結果とそれに対する教員の認識と今後の改善案を中心に、本研究科が行った FD 活動をまとめたものである。FD 活動報告書は、これまで第 1 号から第 14 号まで作成され、本書は 2019 年度の FD 活動をまとめた第 15 号である。本研究科はこれまで 3 度の分野別認証評価を受けたが、評価基準のすべてを満たしていると評価され、「認定会計大学院」の称号を得ている。この FD 活動報告書は、本研究科の自己点検・評価報告書と合わせて、評価を受けるにあたっての資料として提出されている。

我々は、今後もこの FD 活動を通じて、IES に準拠した「世界水準で通用する、理論と実務に習熟した会計専門職業人」を養成すべく、会計専門職教育を継続的に充実・発展させていかなければならない。

今後も、FD 活動を継続して行い、その結果を FD 報告書として公表していくことによって、本研究科の教育内容と水準を向上させ得ると同時に、社会的な評価の向上を期待できると確信している。

2020 年 3 月

会計研究科長 松本 祥尚

I. 授業評価アンケートの実施及びフィードバック方法

(1) 対象科目

本報告書に掲載した授業評価アンケートは、2019年度の春学期と秋学期に開講された会計研究科専任教員が担当するすべての授業科目を対象としている（次頁参照）。

(2) 実施方法

本研究科では、授業評価アンケートを各講義の終了時に実施している。

通年開講の論文指導・修士論文を除き、すべての科目において、15回の講義が実施される。最終講義日の前回である第14回目の講義で、授業評価アンケートの質問状と回答用紙が授業担当者によって配布され、最終講義日の講義終了時に授業評価アンケートの回答用紙が授業担当者によって回収される。回収された回答用紙は、授業担当者によって事務に提出され、そこで集計される。授業評価アンケートは講義時間に影響を与えぬよう、また受講生の正直な回答を促すため、講義時間外に無記名で記入される。集計された結果は、今後の授業内容および方法の改善のための資料として、各授業担当者に配布される。

授業評価アンケートで使用された質問状は、後ページに掲載している。

(3) 分析方法

専任教員が担当する授業科目及び総括については、原則として担当教員が分析している。

(4) フィードバック方法

各担当者が前年度の授業評価アンケートとの比較を行い、授業改善が有効であったか否かを検証した。

(5)対象科目リスト(索引)

類別		授業科目	単位	配当 年次	系統	開講 学期	頁
導入科目群	選択科目	中級商業簿記	2	1	財務会計	春・秋	11・41
		中級工業簿記	2	1	管理会計	春・秋	12・42
基本科目群	必修科目	上級簿記論<上級簿記>	2	1	財務会計	春前・秋	13・14・43
		上級財務会計論	2	1	財務会計	春後	15
		上級原価計算論	2	1	管理会計	春前・秋	16・17・44
		上級管理会計論	2	1	管理会計	春後・秋	18・45
		監査制度論	2	1	監 査	春後・秋	19・46
		監査基準論<監査基準>	2	1	監 査	春・秋	20・47
		企業法	2	1	法律・税務	春前	21
		会計専門職業倫理	2	2	監 査	春・秋	22・48
		会計基準論	2	1	財務会計	春	23
		会計制度論	2	1	財務会計	春	24
発展科目群	選択必修科目	財表作成簿記論<財表作成簿記>	2	1	財務会計	秋	49
		戦略管理会計論	2	1	管理会計	秋	
		企業分析論	2	1	管理会計	秋	50
		監査実施論	2	1	監 査	秋	
		監査報告論	2	1	監 査	秋	51
		商取引法<商法>	2	1	法律・税務	秋	
		会社法	2	1	法律・税務	春	25
		民法<民法(総則・物権)>	2	1	法律・税務	秋	
		法人税法	2	1	法律・税務	春	26
		上級税務会計論	2	1	法律・税務	春	27
		経営学理論	2	1	経営・経済	春	
		経営戦略・組織論<経営戦略論>	2	1	経営・経済	不開講	
		統計学	2	1	経営・経済	春	
		ミクロ経済学	2	1	経営・経済	秋	
		特殊講義(コンサルティング実務)	2	1	横断科目	秋	52
		特殊講義(公会計論)<公会計論>	2	1	横断科目	秋	53
		特殊講義(会計検査制度論)	2	1	監 査	秋	
		特殊講義(BATIC演習)<BATIC演習>	2	1	経済・IT	春	
		特殊講義(会計学の理論と実践)	2	1	横断科目	秋	54
		特殊講義(会計専門職業数学)	2	1	横断科目	春	
		特殊講義(IFRS演習)<IFRS実務>	2	1	財務会計	秋	
		特殊講義(公監査論)<公監査論>	2	2	行 政	不開講	
		特殊講義(民法(債権))<民法(債権)>	2	2	法 律	春	
		特殊講義(資本市場論)<資本市場論>	2	2	ファイナンス	春	28
		特殊講義(資産会計論)<資産会計論>	2	2	財務会計	不開講	
		特殊講義(負債・資本会計論) <負債・資本会計論>	2	2	財務会計	春	29
		特殊講義(不正摘発監査論) <不正摘発監査論>	2	2	監 査	春	30
		特殊講義(国際税務会計事例研究) <国際税務会計事例研究>	2	2	税務会計	秋	
		特殊講義(国際監査事例研究) <国際監査事例研究>	2	2	監 査	秋	
		特殊講義(企業再生事例研究) <企業再生事例研究>	2	2	経 営	不開講	
		特殊講義(起業・株式公開事例研究) <起業・株式公開事例研究>	2	2	経 営	春	
		特殊講義(労務と会計)	2	1	横断科目	秋前	55
		特殊講義(税務と会計)	2	1	横断科目	秋前	56
		特殊講義(企業情報の読み方と使い方)	2	1	横断科目	春後	
		特殊講義(ビジネス法務と会計)	2	1	横断科目	春前	
		特殊講義(企業マネジメントと会計)	2	1	横断科目	春前	31
		特殊講義(アントレプレナーの実務と地域の発展)	2	1	横断科目	春後	
		特殊講義(病院経営の勤どころ・日本経営グループ寄付講座)	2	1	横断科目	秋後	57

類別		授業科目	単位	配当 年次	系統	開講 学期	頁
発展科目群	選択必修科目	英文会計論	2	2	財務会計	秋	
		IFRS会計論＜国際会計基準論＞	2	2	財務会計	秋	
		組織再編会計論＜企業結合会計＞	2	2	財務会計	秋	
		コストマネジメント論	2	2	管理会計	秋	58
		企業価値マネジメント論	2	2	管理会計	春	
		マネジメント・コントロール・システム論	2	2	管理会計	秋	
		内部監査論	2	2	監 査	春	
		国際監査基準論＜国際監査制度論＞	2	2	監 査	春	
		上級会社法	2	2	法律・税務	春	32
		租税法理論	2	2	法律・税務	秋	59
		租税法会計論	2	2	法律・税務	秋	60
		国際税務論＜国際税務戦略論＞	2	2	法律・税務	春	
		コーポレート・ファイナンス論	2	2	経営・経済	秋	61
		インベストメント論	2	2	経営・経済	不開講	
		マクロ経済学	2	2	経営・経済	春	
応用・実践科目群	選択必修科目	基本会計プログラム演習	2	1	財務会計	春	33
		会計事例研究	2	1	財務会計	春	34
		会社経理実務	2	1	財務会計	春	35
		管理会計事例研究	2	1	管理会計	冬集	
		監査事例研究	2	1	監 査	秋	62
		基本監査プログラム演習	2	1	監 査	秋	63
		アカデミック・ソリューション ＜ソリューション・イン・アカデミック＞	2	1	個別演習科目	秋	64－66
		論文指導（導入）	2	1	個別演習科目	春	36
		論文指導（基礎） ＜論文指導・修士論文（基礎）＞	2	1	個別演習科目	秋	67
		実践会計プログラム演習	2	2	財務会計	秋	68
		IFRS事例研究＜国際会計事例研究＞	2	2	財務会計	春	
		ディスクロージャー実務	2	2	財務会計	春	37
		国際管理会計事例研究	2	2	管理会計	春	
		実践監査プログラム演習	2	2	監 査	夏集	
		企業法判例演習	2	2	法律・税務	秋	
		税務事例研究＜上級税務戦略論＞	2	2	法律・税務	秋	
		企業実践コミュニケーション ＜実践コミュニケーション＞	2	2	経営・経済	秋	
		プロフェッショナル・ソリューション ＜ソリューション・イン・エキスパートイズ＞	2	2	個別演習科目	秋	69
		論文指導・修士論文	4	2	個別演習科目	通年	70
		ソリューション・イン・プロフェッショナル		2	2	個別演習科目	春
総 括							73

※掲載対象科目は、2019年度開講の会計研究科専任教員担当科目とする。

※< >は、2017年度以前入学生用カリキュラムの科目名称です。

Ⅱ．2019 年度授業評価アンケートフォーム

2019 年度 関西大学会計専門職大学院 授業評価アンケート

会計研究科教務・FD 委員会

このアンケートは、授業の改善を目的として実施するものであり、担任者が授業をより一層充実するための資料として利用するものです。したがって、皆さんの成績評価にはまったく関係がありませんので、正直な声をお聞かせください。なお、このアンケートは匿名です。あなたの氏名は書く必要はありません。

授業科目	担任者	クラス
------	-----	-----

NO	質問内容	回答
1	授業内容は、講義要項、授業計画に示したものに沿った内容でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
2	この授業の進度はどうでしたか。 1. かなり遅い 2. 遅い 3. ちょうどよい 4. 早い 5. かなり早い	
3	この授業は教員によってよく準備されていましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
4	学生の理解を深めよう、能力を高めようとの熱意・努力が感じられましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
5	この授業での教員の話し方や声の大きさ、説明の仕方は適切でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
6	教科書・配布資料の利用は適切でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
7	ホワイト・ボードやOHP、パソコン等の機材の使い方は適切でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
8	教員は、学生からの質問に的確に対応しましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
9	宿題および小テストの内容・回数は、講義内容を理解する上で効果的でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
10	この授業のクラスの規模は適切でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
11	全体としてこの授業を受講して満足しましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
12	この授業への出席状況はどうでしたか。 1. 30%未満 2. 30%以上 3. 50%以上 4. 70%以上 5. 90%以上	
13	この授業についての予習を、毎回どれくらいしましたか。 1. 0時間 2. 30分程度 3. 1時間程度 4. 1時間30分程度 5. 2時間以上	
14	この授業についての復習を、毎回どれくらいしましたか。 1. 0時間 2. 30分程度 3. 1時間程度 4. 1時間30分程度 5. 2時間以上	
15	この授業に触発されてさらに深く学習したいと思いましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
16	この授業を通じて、職業会計人に必要な知識が深まった、能力が高まったと感じましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
17	あなたは全体としてこの授業を受講して理解できましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	

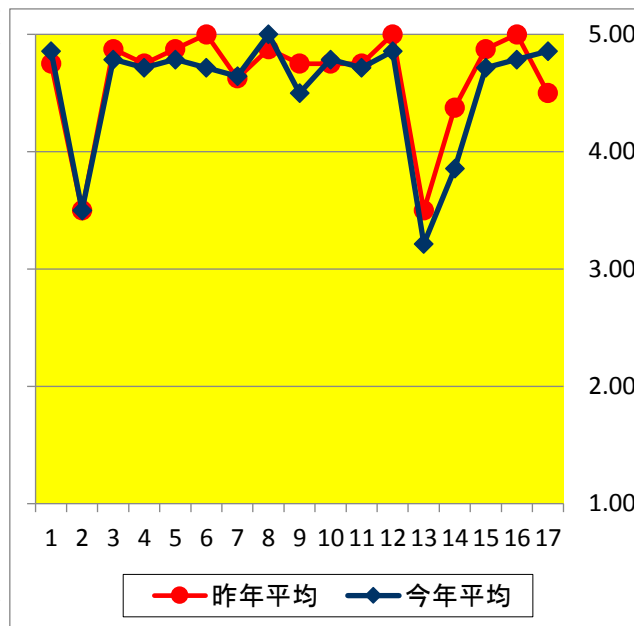
— 以上 —

授業担任者に提出してください。ご協力ありがとうございました。

Ⅲ－(1)．2019 年度授業評価アンケート(春学期)結果概要

科 目	中級商業簿記(A)		
配当年次	1	開講時限	春金5
受講者数	16	回答者数	14

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.75	4.86	5	5	4
2	3.50	3.50	3	5	3
3	4.88	4.79	5	5	4
4	4.75	4.71	5	5	3
5	4.88	4.79	5	5	4
6	5.00	4.71	5	5	4
7	4.63	4.64	5	5	3
8	4.88	5.00	5	5	5
9	4.75	4.50	5	5	3
10	4.75	4.79	5	5	4
11	4.75	4.71	5	5	3
12	5.00	4.86	5	5	4
13	3.50	3.21	3	5	1
14	4.38	3.86	5	5	2
15	4.88	4.71	5	5	4
16	5.00	4.79	5	5	4
17	4.50	4.86	5	5	4
回答者数	8	14			



受講生の傾向

簿記の習熟度が低い学生が多く、受講生の大半が留学生であった。受講生の中には、この講義の履修義務はないけれども、基礎力の強化を目的として参加する学生もいた。受講生は全員、授業に積極的に取り組んでおり、連動する課外講座への参加率も極めて高い状況であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

個別の質問対応を重視して、全員の理解を一人ずつ確認して回るようにした。定期的にミニテストを行って受講生のモチベーションを維持することに努めるとともに、ミニテストは講義中に即座に採点して受講生にフィードバックし、個別指導を行った。また、授業時間外での学習を促すために宿題を課して提出させ、自学自習の習慣が自然と身に付くようにした。教員も課外講座に参加して、講義と講座の連携を密にしながら受講生の学習をフォローした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

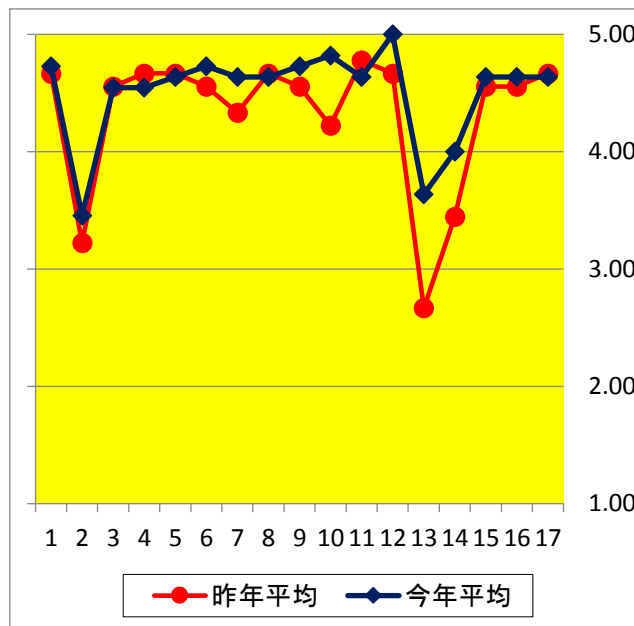
今年度の学生は、授業中は積極的に課題に取り組んでいたが、授業時間外でも同様に意欲的であった学生と、そうではなかった学生がいたように感じられる。なかには、アルバイトで勉強に支障が生じていると思われるケースもあった。受講生には大学院生としての自覚と勉強意欲、緊張感をもって日常の勉強に励むように指導していきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

この講義は、受講生の大半が留学生であり、日本語の理解力にも個人差があることから、アンケート結果は毎年安定しないことが多い。今年度の受講生の多くは極めて真面目であり、授業中も授業時間外でも意欲的に課題に取り組んでいたように感じられる。自学自習の習慣も、授業が進むに連れて次第に身に付いていった。講義展開としては全体的に良い感触を得ている。次年度も継続することにした。

科 目	中級工業簿記(A)		
配当年次	1	開講時限	春木5
受講者数	15	回答者数	11

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	4.73	5	5	4
2	3.22	3.45	3	5	2
3	4.56	4.55	5	5	3
4	4.67	4.55	5	5	3
5	4.67	4.64	5	5	3
6	4.56	4.73	5	5	4
7	4.33	4.64	5	5	3
8	4.67	4.64	5	5	3
9	4.56	4.73	5	5	4
10	4.22	4.82	5	5	4
11	4.78	4.64	5	5	3
12	4.67	5.00	5	5	5
13	2.67	3.64	5	5	2
14	3.44	4.00	5	5	2
15	4.56	4.64	5	5	4
16	4.56	4.64	5	5	4
17	4.67	4.64	5	5	4
回答者数	9	11			



受講生の傾向

本科目は、日商簿記2級の知識に満たない受講生を対象とした、工業簿記の導入科目である。受講生は、全体としては真面目に出席していた。ただし、例年と同様に、受講者の簿記の知識の程度にはばらつきがみられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の評点が、全体としては十分に高かったと考えられる。そこで、本年度も、昨年度と同様に、予習復習をするように呼び掛けるなどの対応を継続した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

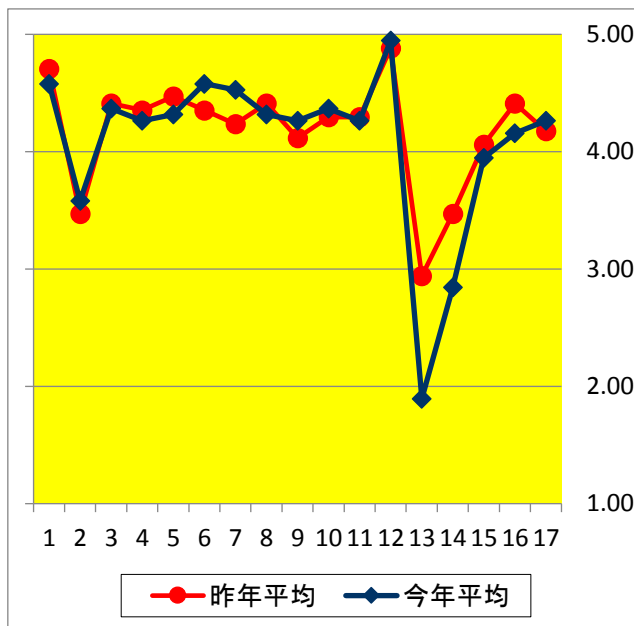
項目ごとに評点の増減が見受けられるが、全体としては昨年度と同様に比較的高い評点であったと考えられる。ただし、授業外の学習については大きく減少していることから、授業中に予復習を行うように指導する必要性を感じている。それ以外の点については、次年度以降も本年と同様の対応を継続することが重要であると考えている。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

本年度も昨年度と同様に、全体としては高い評点を獲得することができた。また、受講生の復習の時間が大きく改善した点は、良い傾向であると評価している。したがって、次年度も、本年度と同様の取り組みを継続することが重要であると考えている。

科 目	上級簿記論＜上級簿記＞(A1)		
配当年次	1	開講時限	春前月2・木3
受講者数	21	回答者数	19

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.71	4.58	5	5	3
2	3.47	3.58	3・4	5	2
3	4.41	4.37	4	5	4
4	4.35	4.26	4	5	3
5	4.47	4.32	4	5	3
6	4.35	4.58	5	5	4
7	4.24	4.53	5	5	3
8	4.41	4.32	4	5	3
9	4.12	4.26	4	5	3
10	4.29	4.37	4	5	4
11	4.29	4.26	4・5	5	3
12	4.88	4.95	5	5	4
13	2.94	1.89	1	4	1
14	3.47	2.84	2	5	1
15	4.06	3.95	4	5	2
16	4.41	4.16	4	5	3
17	4.18	4.26	4	5	3
回答者数	17	19			



受講生の傾向

講義展開は昨年度と同様であり、アンケート結果も全体的に昨年度と同様の傾向を示している。しかし、質問13(予習時間)と質問14(復習時間)は、昨年度よりも大幅に低い。これについては、A2クラスのアンケート結果と比較しても同じ傾向が見られる。具体的に、質問13は、A1クラスがA2クラスよりも0.5ポイント低い。また、質問14は、A1クラスがA2クラスよりも0.96ポイントも低い。このことから、今年度のA1クラスは、授業時間外での勉強が少なかったことが分かる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義中の説明は、「覚えて解く」(暗記)ではなく、「考えて解く」(理解)ことを意識するように指導した。数多くの問題を解き、パターン化して問題慣れすることよりも、基礎的で重要な論点をしっかりと理解し、その確かな理解の上に応用力が培われることが分かるように指導し、そのように講義資料も工夫した。講義中は全体説明に終始することなく、問題演習の時間も確保するようにした。問題演習の時間は、質問があればその場で対応し、間違いがあれば指摘するなど、全員の理解を一人ずつ確認して回った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

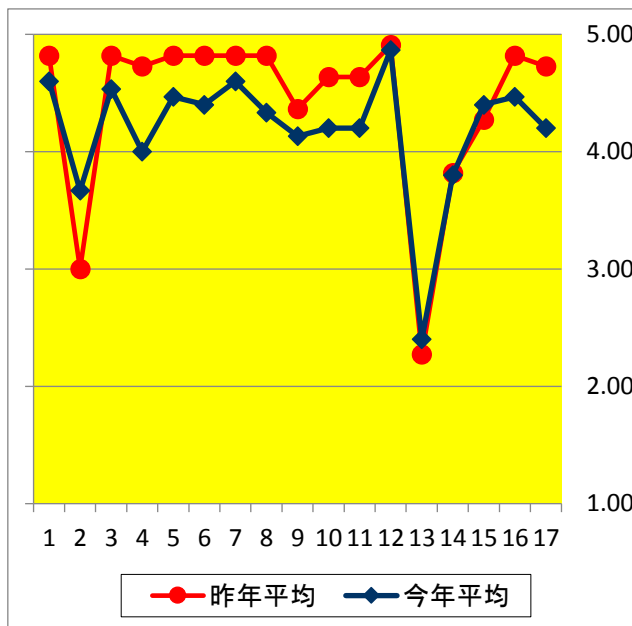
講義展開としては全体的に良い感触を得ている。受講生の簿記の習熟度等に配慮しながら、次年度も継続することにした。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

この授業は、4月初から5月末のクォーターで展開される科目である。この時期に、短答式の受験勉強や就職活動に時間を費やす学生も多い。そのため、授業の勉強時間が少ないことには、やむを得ないところもある。しかし、講義展開としては全体的に良い感触を得ている。次年度も継続することにした。

科 目	上級簿記論＜上級簿記＞(A2)		
配当年次	1	開講時限	春前月3・木2
受講者数	19	回答者数	15

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.82	4.60	5	5	4
2	3.00	3.67	4	4	3
3	4.82	4.53	5	5	3
4	4.73	4.00	4	5	2
5	4.82	4.47	4	5	4
6	4.82	4.40	4・5	5	3
7	4.82	4.60	5	5	4
8	4.82	4.33	4・5	5	2
9	4.36	4.13	4	5	2
10	4.64	4.20	4	5	3
11	4.64	4.20	4	5	2
12	4.91	4.87	5	5	4
13	2.27	2.40	1	5	1
14	3.82	3.80	4	5	1
15	4.27	4.40	4	5	4
16	4.82	4.47	4	5	4
17	4.73	4.20	4	5	3
回答者数	11	15			



受講生の傾向

昨年度と比較すると、今年度は全体的にポイントが低い。講義展開は昨年度と同様であるから、大きな違いがあるところは、受講意欲や目的意識の違いによるものであろう。A1クラスと比較すると、全体的に同じ傾向にあるが、A2クラスの方が質問13(予習時間)と質問14(復習時間)は大幅に高くなっている。このことから、A1クラスよりもA2クラスの方が、勉強時間を確保していたことが分かる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義中の説明は、「覚えて解く」(暗記)ではなく、「考えて解く」(理解)ことを意識するように指導した。数多くの問題を解き、パターン化して問題慣れすることよりも、基礎的で重要な論点をしっかりと理解し、その確かな理解の上に応用力が培われることが分かるように指導し、そのように講義資料も工夫した。講義中は全体説明に終始することなく、問題演習の時間も確保するようにした。問題演習の時間は、質問があればその場で対応し、間違いがあれば指摘するなど、全員の理解を一人ずつ確認して回った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

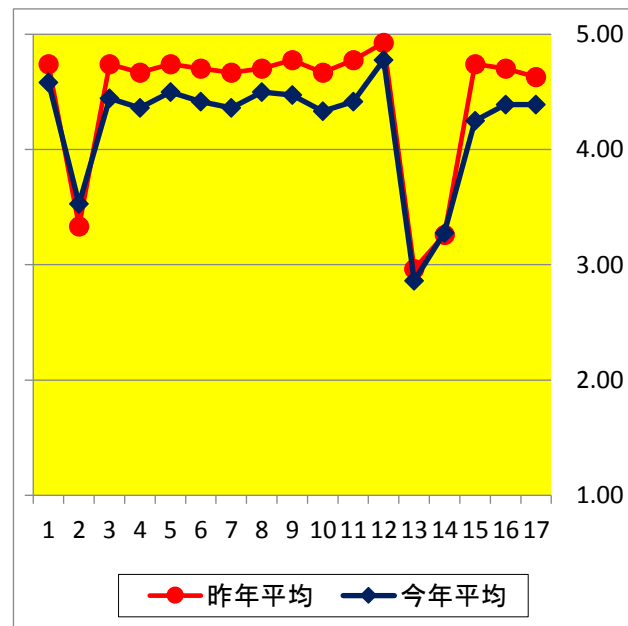
講義展開としては全体的に良い感触を得ている。受講生の簿記の習熟度等に配慮しながら、次年度も継続することにした。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

この授業は、4月初から5月末のクォーターで展開される科目である。この時期に、短答式の受験勉強や就職活動に時間を費やす学生も多い。そのため、授業の勉強時間が少ないことには、やむを得ないところもある。しかし、講義展開としては全体的に良い感触を得ている。次年度も継続することにした。

科 目	上級財務会計論(A)			
配当年次	1	開講時限	春後月3・木2	
受講者数	38	回答者数	36	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.74	4.58	5	5	3
2	3.33	3.53	3	5	3
3	4.74	4.44	5	5	3
4	4.67	4.36	5	5	2
5	4.74	4.50	5	5	3
6	4.70	4.42	5	5	3
7	4.67	4.36	5	5	2
8	4.70	4.50	5	5	3
9	4.78	4.47	5	5	1
10	4.67	4.33	5	5	2
11	4.78	4.42	5	5	3
12	4.93	4.78	5	5	3
13	2.96	2.86	1	5	1
14	3.26	3.28	3	5	1
15	4.74	4.25	5	5	1
16	4.70	4.39	5	5	1
17	4.63	4.39	5	5	3
回答者数	27	36			



受講生の傾向

全ての受講生(欠席の多い若干名を除く)が、概ね真摯に受講していたと感じる。予習・復讐の時間も平均1時間を超えている状態であり、十分に準備をして受講し、授業内容の理解にも努めていたと思われる。昨年度より回答ポイントが低いことを踏まえると、講義に対する満足度が十分に高いわけでもないかもしれない。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は受講生による評価が良好であったため、同方向で工夫を講じている。具体的には、講義内容のポイントを講義終了時と講義開始時に伝え、講義内容をより正確に理解するよう促した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

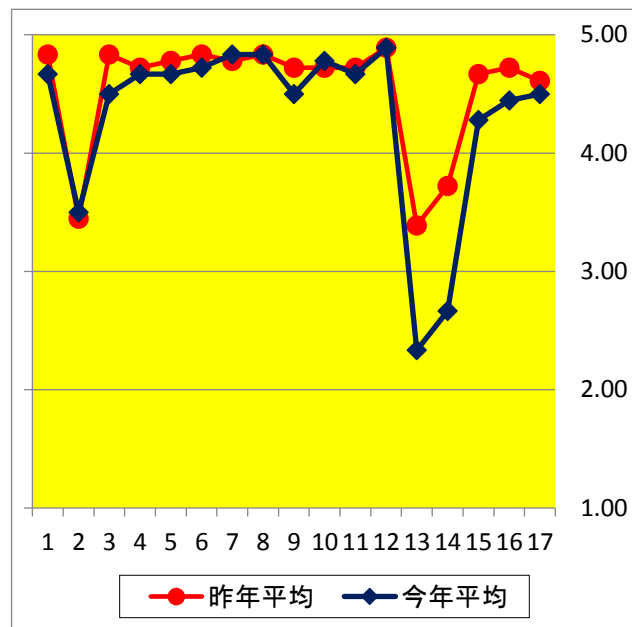
昨年度と比較して、受講生による評価が向上しており、今学期(春学期)と同方向で実施したいと思う。具体的には、受講生の学習レベルや意識の想定とそれに伴う講義内容への要望に沿うよう、講義内容のより深く正確な理解を促し、小テストや中間試験を通じた学習の注意事項の解説、個別の質問への回答を踏まえた理解のポイントの説明を行うつもりである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

評価結果が昨年度より悪化し、一昨年度より良好であることを踏まえると、講義内容や実施方法の方向性は変化させる必要がないように思われるため、受講生の学習意欲がより高くなるよう、講義内容の理解のポイントをわかりやすく明示し、より深く正確な理解を促すような講義展開を行うつもりである。

科 目	上級原価計算論(A1)			
配当年次	1	開講時限	春前月3・木2	
受講者数	18	回答者数	18	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.83	4.67	5	5	4
2	3.44	3.50	3	5	3
3	4.83	4.50	5	5	3
4	4.72	4.67	5	5	4
5	4.78	4.67	5	5	4
6	4.83	4.72	5	5	3
7	4.78	4.83	5	5	4
8	4.83	4.83	5	5	4
9	4.72	4.50	5	5	3
10	4.72	4.78	5	5	4
11	4.72	4.67	5	5	4
12	4.89	4.89	5	5	4
13	3.39	2.33	1	5	1
14	3.72	2.67	2	5	1
15	4.67	4.28	5	5	3
16	4.72	4.44	4	5	4
17	4.61	4.50	4・5	5	4
回答者数	18	18			



受講生の傾向

公認会計士試験を志す生徒も多く、理解力は高いと感じた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

生徒の興味をさらに引けるように、具体例の内容を工夫した。また、間違いが頻発しそうな箇所については、繰り返し説明するよう留意した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

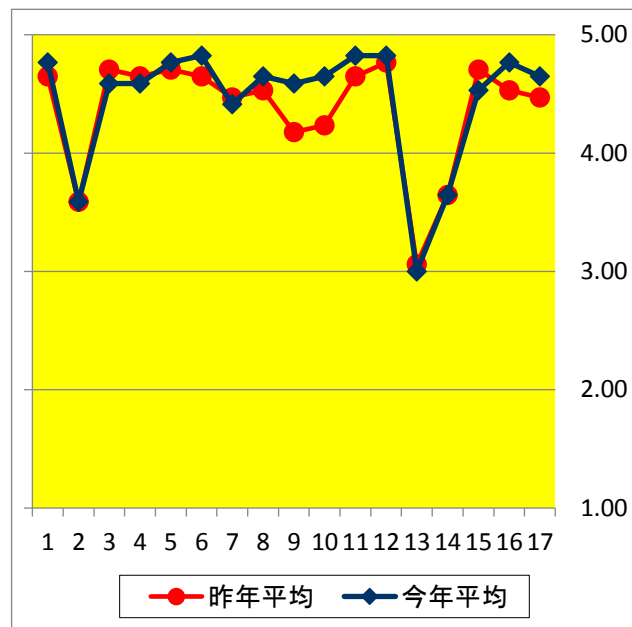
かなりレジュメの精緻化が進んできたので、できればレジュメを書籍にしたいと考えている。富田先生経由で、中央経済社と連絡を取り、来年の秋学期をメドに書籍化を図りたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

別件の仕事案件が多く、書籍化は少し先延ばしになりそう。より、「会計って楽しい」と思えるような講義になるよう、日々自己研鑽に励む。

科 目	上級原価計算論(A2)		
配当年次	1	開講時限	春前月2・木3
受講者数	19	回答者数	17

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.65	4.76	5	5	4
2	3.59	3.59	3	5	3
3	4.71	4.59	5	5	3
4	4.65	4.59	5	5	4
5	4.71	4.76	5	5	4
6	4.65	4.82	5	5	4
7	4.47	4.41	4・5	5	3
8	4.53	4.65	5	5	4
9	4.18	4.59	5	5	3
10	4.24	4.65	5	5	4
11	4.65	4.82	5	5	4
12	4.76	4.82	5	5	4
13	3.06	3.00	1・2・4・5	5	1
14	3.65	3.65	5	5	1
15	4.71	4.53	5	5	3
16	4.53	4.76	5	5	4
17	4.47	4.65	5	5	4
回答者数	17	17			



受講生の傾向

公認会計士試験を志す生徒も多く、理解力は高いと感じた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

生徒の興味をさらに引けるように、具体例の内容を工夫した。また、間違いが頻発しそうな箇所については、繰り返し説明するよう留意した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

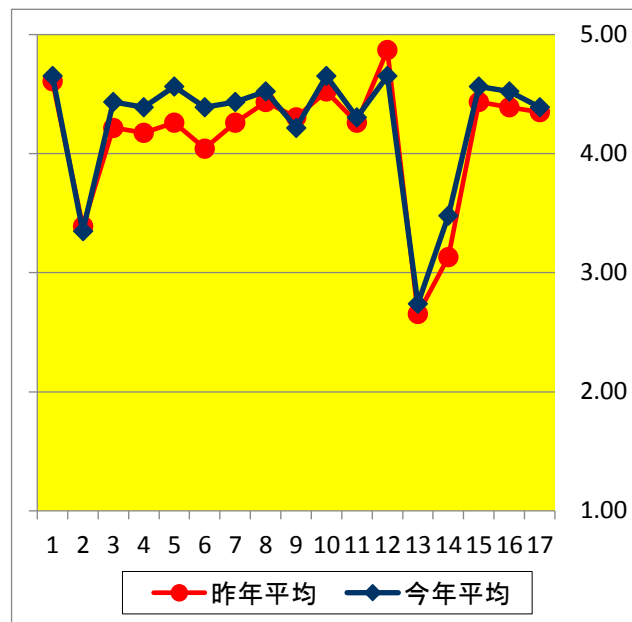
かなりレジュメの精緻化が進んできたので、できればレジュメを書籍にしたいと考えている。富田先生経由で、中央経済社と連絡を取り、来年の秋学期をメドに書籍化を図りたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

別件の仕事案件が多く、書籍化は少し先延ばしになりそう。より、「会計って楽しい」と思えるような講義になるよう、日々自己研鑽に励む。

科 目	上級管理会計論(A)			
配当年次	1	開講時限	春後月2・木3	
受講者数	26	回答者数	23	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.61	4.65	5	5	3
2	3.39	3.35	3	5	3
3	4.22	4.43	4・5	5	3
4	4.17	4.39	5	5	3
5	4.26	4.57	5	5	4
6	4.04	4.39	4・5	5	2
7	4.26	4.43	5	5	2
8	4.43	4.52	5	5	3
9	4.30	4.22	4	5	2
10	4.52	4.65	5	5	4
11	4.26	4.30	4	5	3
12	4.87	4.65	5	5	3
13	2.65	2.74	1	5	1
14	3.13	3.48	3	5	1
15	4.43	4.57	5	5	3
16	4.39	4.52	5	5	4
17	4.35	4.39	4・5	5	2
回答者数	23	23			



受講生の傾向

本講義は、基本科目群に属する管理会計の必修科目である。受講生は全体として真面目に出席していたが、受講生全体の知識の差は大きかったと感じている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

ほとんどの項目において、昨年度の評点が良いであったと考えられる。そのため、本年度も昨年度と同様の取り組みを継続するように心がけた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

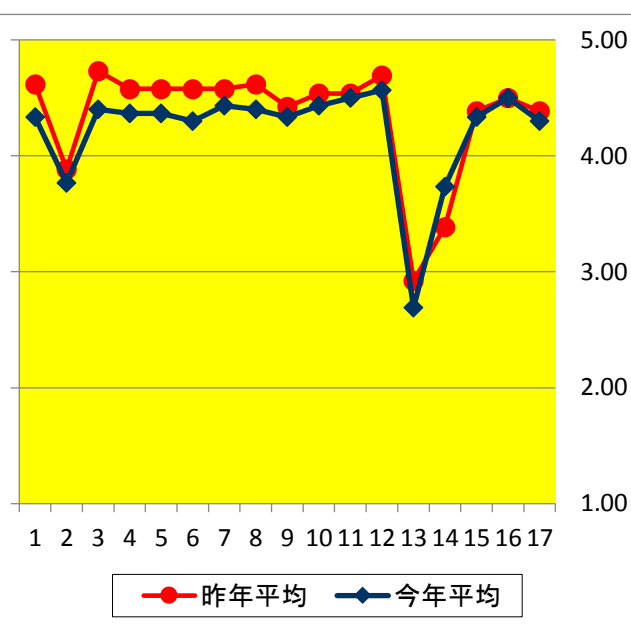
本年度の評点は、ほとんど全ての項目で昨年度よりも改善しており、全体として良好であったと思われる。そのため、次年度以降も本年度のような対応を継続することが重要であると考えている。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度と同様に、受講生に対するきめ細かな対応を心掛けた。その結果として、本年も比較的高い評点を獲得することができたと考えている。したがって、今後も、本年度と同様の取り組みを継続することが重要であると考えられる。

科 目	監査制度論(A)		
配当年次	1	開講時限	春後火2・金3
受講者数	31	回答者数	30

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.62	4.33	5	5	2
2	3.88	3.77	4	5	2
3	4.73	4.40	5	5	2
4	4.58	4.37	5	5	1
5	4.58	4.37	5	5	2
6	4.58	4.30	5	5	2
7	4.58	4.43	5	5	3
8	4.62	4.40	5	5	2
9	4.42	4.33	5	5	1
10	4.54	4.43	5	5	3
11	4.54	4.50	5	5	3
12	4.69	4.57	5	5	1
13	2.92	2.69	2	5	1
14	3.38	3.73	5	5	1
15	4.38	4.33	5	5	3
16	4.50	4.50	5	5	3
17	4.38	4.30	5	5	3
回答者数	26	30			



受講生の傾向

必修科目(基本科目)群に属することから、受講生の出席率(項目12)は昨年度より若干低下したとはいえ、80%を超えており極めて高い出席率となっている。出席率から見ると、本科目に対する勉学の意欲は相対的に高いだけでなく、教員側の熱意(項目4)、説明の仕方(項目5)、教材の利用(項目6)、機材の使い方(項目7)に対するといった項目のほぼ全ての項目において、昨年実績より僅かに低下したものの高い評価を得ている。また、課題予習(項目13)・復習(項目14)に対する時間も、去年なみであり、本科目の受講に伴う学習意欲の向上(項目15)、ならびに知識・能力の向上(項目16)に繋がっている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度に監査基準改訂があったため、改訂監査基準及び監査実務指針を反映した網羅的かつ体系的なパワーポイントによるスライドを提供した。またスライドの最後には、受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題に対応するための参考文献を列挙した。さらにこれら配布用の資料は、講義終了後、関西大学LMSに授業前日アップロードし、WEB配信により受講生が予習・復習をできるようにした。

2回分の授業が終了するごとに、当該2回分の理解度を確保する目的と復習を動機付けるために、小テストを授業時間の最初15分程度で実施した。翌週に、小テストの添削後、コメントを付して各自に返却するとともに、優秀答案を氏名を伏せて配布し、添削上のポイントを解説した。最終的に、講義2回→小テスト実施→添削→返却(添削ポイント・講評)を繰り返すことで、各受講生にエッセイの書き方(重要論点の抽出と一貫した論旨の展開)を習得できるように心懸けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

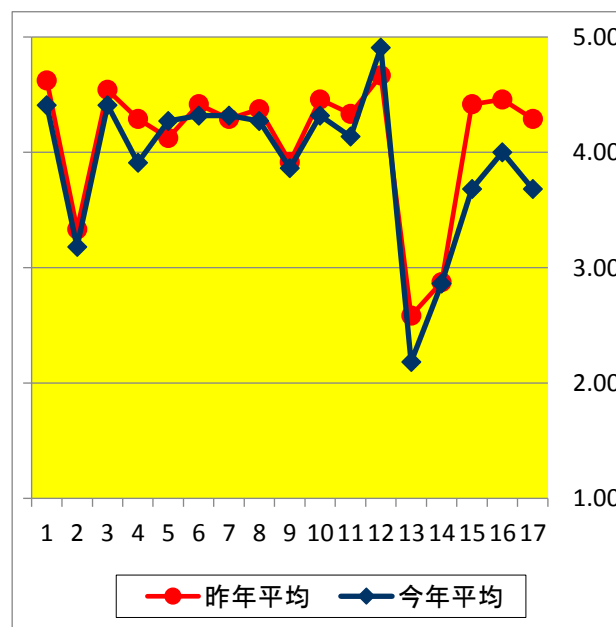
今年度は学生からの復習課題の添削依頼がなかったため、より前向きに復習課題への取組みを促す仕組みを確立し、自発的な復習課題の作成と提出が行われるような措置が必要になりつつある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

講義終了時に、実施可能な復習課題の範囲を明示し、次に実施する小テストの範囲に言及することで、受講生に復習を促すようにする必要がある。

科 目	監査基準論<監査基準>(A)			
配当年次	1	開講時限	春水1	
受講者数	24	回答者数	22	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.63	4.41	4	5	3
2	3.33	3.18	3	5	2
3	4.54	4.41	4	5	3
4	4.29	3.91	4	5	2
5	4.13	4.27	4	5	4
6	4.42	4.32	4・5	5	2
7	4.29	4.32	4	5	3
8	4.38	4.27	5	5	3
9	3.92	3.86	4	5	3
10	4.46	4.32	4	5	2
11	4.33	4.14	4	5	2
12	4.67	4.91	5	5	4
13	2.58	2.18	1・2	5	1
14	2.88	2.86	2	5	1
15	4.42	3.68	4	5	2
16	4.46	4.00	4	5	2
17	4.29	3.68	4	5	1
回答者数	24	22			



受講生の傾向

受講生は24人であった。会計士志望は半分程度であったものの、概ね熱心に集中して受講していた。講師からの質問に積極的に回答するのみならず、受講生からの質問もなされ、真摯な姿勢がうかがえた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度に引き続き、自宅学習を促進するため監査基準委員会報告書等を配布して自宅学習用にするとともに、授業の中に復習のための演習問題を実施した。毎回の授業の終わりには、復習のため次週までに関連資料を通読するように指示した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

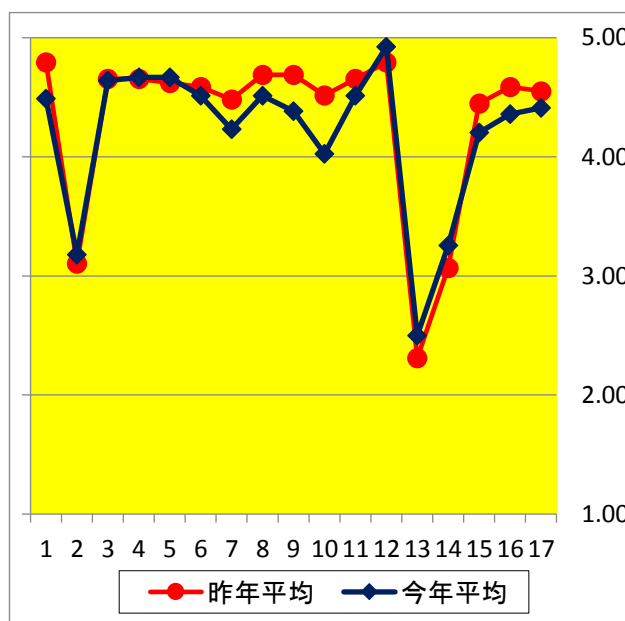
評価は引き続き期末試験重視にし、自宅での自己学習用に関連資料の配布を充実させることとする。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

最近、監査基準や監査基準委員会報告書の改定が頻繁なため、常に最新の情報を配布資料に織り込むようにして自己学習用関連資料を充実させる。評価については、引き続き期末試験重視にする。

科 目	企業法(A)			
配当年次	1	開講時限	春前火2・金3	
受講者数	41	回答者数	39	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.79	4.49	4	5	4
2	3.10	3.18	3	5	1
3	4.66	4.64	5	5	3
4	4.66	4.67	5	5	3
5	4.62	4.67	5	5	4
6	4.59	4.51	5	5	2
7	4.48	4.23	5	5	2
8	4.69	4.51	5	5	3
9	4.69	4.38	5	5	3
10	4.52	4.03	5	5	2
11	4.66	4.51	5	5	3
12	4.79	4.92	5	5	4
13	2.31	2.50	2	5	1
14	3.07	3.26	2	5	2
15	4.45	4.21	4	5	3
16	4.59	4.36	4	5	3
17	4.55	4.41	4	5	3
回答者数	29	39			



受講生の傾向

本科目は基本科目でありそもそも受講者数は多い傾向にあるが、本年度は春学期に受講者数が41名と1クラス授業としては多くの人数が受講した。受講生は多かったがほとんどの学生が授業に対してまじめにかつ熱心に参加し、積極的に参加していた。企業法は、会計未修者の学生でも履修可能な科目となっており、さらに法学初学者であっても受講できるよう配慮している科目なので、難易度としてはあまり高いとは感じられていないようで、授業進度も比較的ちょうど良いようである。ただ、論述式および択一式の小テストなどを実施しているため、予習や復習の時間がもう少し取られていればと思う。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

企業法の授業は法学初学者に対して、その他の法学の授業（例えば、会社法、商取引法、民法等）のためにも、法学の基礎を教えるという重要な役割があるので、今年度は企業法の授業の中で法学の基礎的な知識や用語の意味などを極力教えるように心がけた。授業の中では理解度を確認するために公認会計士短答式試験を利用した8回の短答式小テストを行い、また授業期間中3回の論文式小テストを行った。特に論文式については、最初は論文作成が難しかった受講生も論文作成の練習回数を重ねるごとに論文を作成することができるようになっていた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

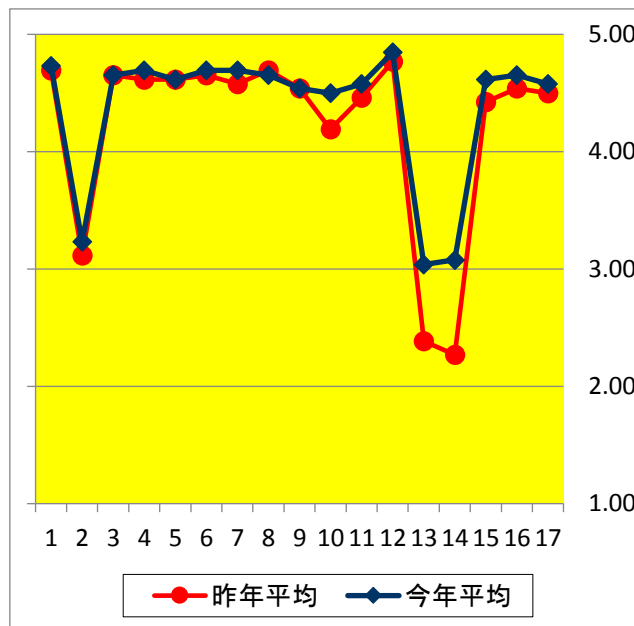
本科目は、企業法の基礎を学習するとともに、法学の基礎についてもここで習得することを目的としている。よって、基本的な法律用語等も含めて法的な思考方法ないし考え方を身に付けられるようにし、今後の法律系の授業をスムーズに受けられるようにしていきたい。よって基礎以外の論点や応用といった部分は、他の科目で十分補えるので、ここではより丁寧な授業を行いすべての学生が基礎力を身につけられるよう工夫したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

企業法は、本会計研究科の法学に関する基礎の科目を構成するので、すでに企業法を学習した学生については理解を再確認してもらい、ないしより理解を深めてもらい、法学初学者については、必要最低限の法学に関する学力を身に付けてもらいたい。そのためにも授業を受けて終わりというのではなく、授業中に行う小テスト等を利用して、受講生にはよりしっかりと理解してもらえよう、多くの学生（特に苦手とする）が時間外学修（予習復習等）に取り組むような工夫をしていきたい。

科 目	会計専門職業倫理(A)			
配当年次	2	開講時限	春月4	
受講者数	28	回答者数	26	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.69	4.73	5	5	4
2	3.12	3.23	3	4	3
3	4.65	4.65	5	5	4
4	4.62	4.69	5	5	4
5	4.62	4.62	5	5	3
6	4.65	4.69	5	5	4
7	4.58	4.69	5	5	4
8	4.69	4.65	5	5	3
9	4.54	4.54	5	5	3
10	4.19	4.50	5	5	2
11	4.46	4.58	5	5	3
12	4.77	4.85	5	5	4
13	2.38	3.04	3	5	1
14	2.27	3.08	3	5	1
15	4.42	4.62	5	5	4
16	4.54	4.65	5	5	4
17	4.50	4.58	5	5	4
回答者数	26	26			



受講生の傾向

全般的に授業に前向きに取り組む学生が多かった。既に資格を取得した受講生(2名)、社会人経験者がリーダーシップを取って班によるディスカッションや発表等の取り組みを進める様子が見られ、留学生の中でも積極的に授業参加をする受講生がおり、授業も深掘りできたし、予定どおり進めやすかった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

授業の必要性、重要性を丁寧に説明した。資格取得を目指す学生以外にも本授業が重要であることは理解されたように思う。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

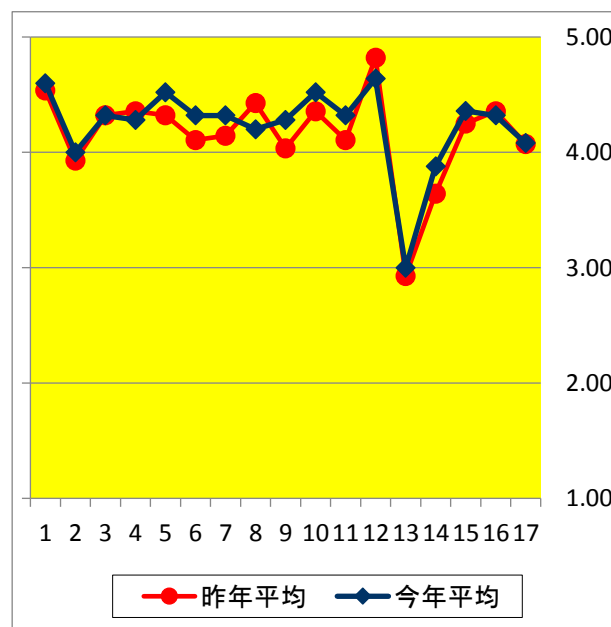
全員が履修しなければならない必修科目であることから、その必要性、重要性を説得する必要があると感じた。受講者の中には、「PAコース以外の者にはわかりにくい(或いは不要)」、「班編成に不満」というような声もあったが、所与の条件の中で学習目標を設定して取り組むことが必要と認識しているため、今後そのように指導したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今学期の授業は順調に進めることができたためこのペースを維持したい。ただ、定員が減り、春学期に受講が集中する傾向があるため、学期間のバランスをどう取るか、課題は多い。

科 目	会計基準論			
配当年次	1	開講時限	春水3	
受講者数	30	回答者数	25	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.54	4.60	5	5	3
2	3.93	4.00	4	5	3
3	4.32	4.32	5	5	3
4	4.36	4.28	5	5	3
5	4.32	4.52	5	5	2
6	4.11	4.32	5	5	2
7	4.14	4.32	5	5	2
8	4.43	4.20	5	5	3
9	4.04	4.28	5	5	2
10	4.36	4.52	5	5	3
11	4.11	4.32	5	5	3
12	4.82	4.64	5	5	3
13	2.93	3.00	2・3	5	1
14	3.64	3.88	4	5	2
15	4.25	4.36	5	5	2
16	4.36	4.32	5	5	3
17	4.07	4.08	5	5	2
回答者数	28	25			



受講生の傾向

概ね全ての受講生が全回出席し真摯に受講していたが、欠席の多い受講生が少なからずいた。このような出席状況は、昨年度と同様に、十分な基礎的な知識がなく理解が困難なまま出席している受講生と、積極的に講義内容を理解しようとする態度が顕著に見られる受講生との二つに別れ、前者の受講生には、受講に際し、指定された教科書もしくは資料を用意せずに出席する者も多く感じた。また、小テストや試験の受験時における不正行為が噂されたことも憂慮すべきである。授業は後者の学生を意識したため、結果的に全体としては授業の速度が早いと感じる受講生も多いようであった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度と受講生の傾向が似ていると予想されたため、講義内容をより深く正確に理解しようとする受講生を主たる受講生として、講義を行った。ただし、講義内容を理解しやすいよう、各回の講義内容のポイントを講義終了時にまとめとして説明し、講義全体としての到達目標を認識できるよう努めた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

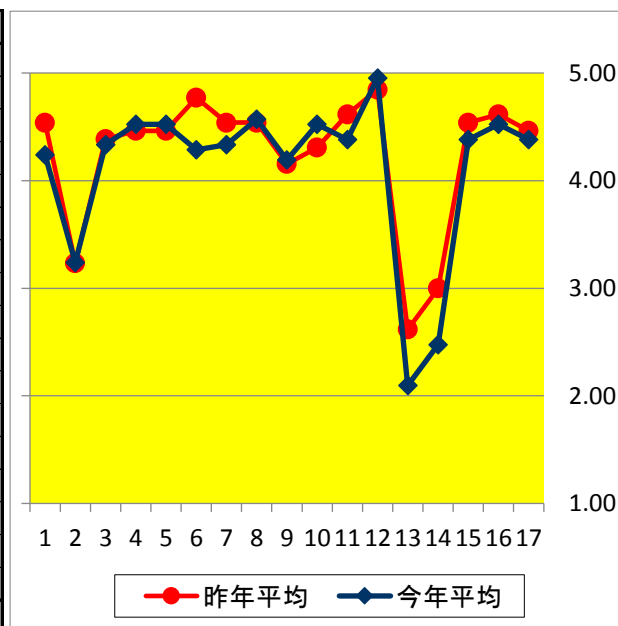
受講生の態度や事前の理解度は、昨年同様に二極化していると感じる。十分に受講の準備ができていない受講生には、指定した教科書もしくは資料を必ず用意させるところから注意し、小テストの結果に応じて追加の課題を課すなどの工夫を模索していこうと思う。また、十分に受講の準備ができていない受講生には、より深く体系的で実践的な内容を示すことができるように工夫を講じるつもりである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度も、一昨年度や昨年度と同様に、受講生の受講態度や学習意欲が二極化していると感じる。十分に受講の準備ができていない受講生に対しては、予習・復習を促し、小テストの結果に応じた追加的な学習指導ができるよう資料作成などの工夫を模索してみようと思う。また、十分に受講準備ができていない受講生には、より正確な理解ができるような説明や資料作成など工夫を講じるつもりである。

科 目	会計制度論			
配当年次	1	開講時限	春火3	
受講者数	22	回答者数	21	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.54	4.24	5	5	2
2	3.23	3.24	3	5	2
3	4.38	4.33	5	5	2
4	4.46	4.52	5	5	4
5	4.46	4.52	5	5	3
6	4.77	4.29	5	5	2
7	4.54	4.33	5	5	2
8	4.54	4.57	5	5	3
9	4.15	4.19	4	5	3
10	4.31	4.52	5	5	4
11	4.62	4.38	5	5	3
12	4.85	4.95	5	5	4
13	2.62	2.10	2	5	1
14	3.00	2.48	2	5	1
15	4.54	4.38	4・5	5	2
16	4.62	4.52	5	5	3
17	4.46	4.38	5	5	3
回答者数	13	21			



受講生の傾向

昨年度よりも予習復習に時間をかける割合がやや減ったものの、出席率は昨年同様に非常に高い。昨年度に続き、一般的にこの科目への評価がかなり高まっているが、重点的に重要事項を繰り返したことが原因であろう。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度に指摘したように、一昨年からの改善点を踏襲した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

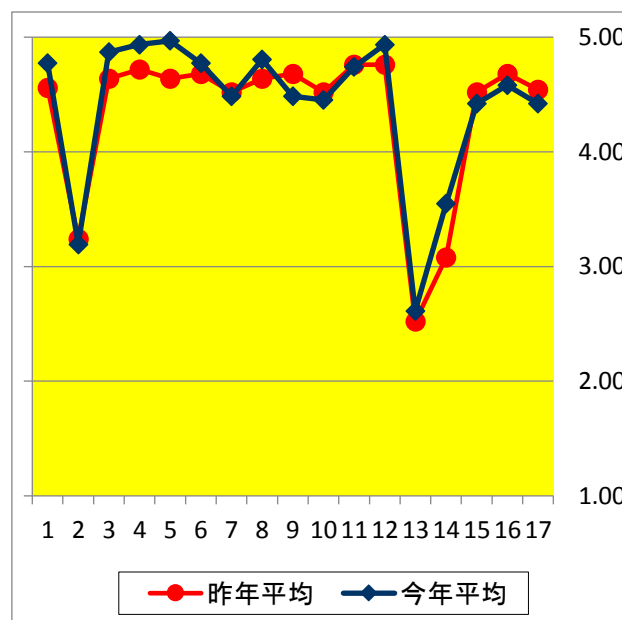
一昨年は「受講生の一層の理解度・満足度を高めるには論理的な話を少なくすればいいのだが、講義の主旨に反するので、論理的思考を高めるようにより多くの質問を浴びせるなどのクラス運営が必要に思う。」としていたが、昨年は「概ね今年度の方針が受け入れられたようなので、次年度も同じように進めたい。」としていた。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

一昨年と比較して、昨年、今年と評価が高まっている。これは求められる内容・水準とあっているように思える。来年度もこの方針を継続したい。

科 目	会社法			
配当年次	1	開講時限	春金4	
受講者数	32	回答者数	31	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.56	4.77	5	5	4
2	3.24	3.19	3	5	2
3	4.64	4.87	5	5	4
4	4.72	4.94	5	5	4
5	4.64	4.97	5	5	4
6	4.68	4.77	5	5	3
7	4.52	4.48	5	5	3
8	4.64	4.81	5	5	4
9	4.68	4.48	5	5	3
10	4.52	4.45	5	5	3
11	4.76	4.74	5	5	4
12	4.76	4.94	5	5	4
13	2.52	2.61	2	5	1
14	3.08	3.55	4	5	1
15	4.52	4.42	5	5	3
16	4.68	4.58	5	5	3
17	4.54	4.42	5	5	3
回答者数	25	31			



受講生の傾向

今年度は会社法の授業は、私の学術研究員期間の関係で、通常秋学期開講のところ、春学期の開講となった。その影響もあったかもしれないが、受講者数は32名と特に多いというわけではなかった。傾向としては、全体的に受講態度は良好で、授業に対しては熱心に取り組んでいた。授業進捗としても春学期に同時開講している企業法の進捗とリンクさせながらすすめたので、かえって秋学期開講しているときのように、企業法の内容を忘れてしまって、会社法の理解が困難になるということもあまりなく、進捗としても適切であったようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

上記でも示したが、春学期に同時開講している企業法の進捗とリンクさせながら、授業を行うように心がけた。ほとんどの受講生が企業法と同時履修であったが、一部企業法を履修しないで(秋学期履修としているため)会社法を履修している学生がいたので、この場合には、企業法を聴講してもらった。これは、今年度のみの特異な事情であるが、臨時的に春学期開講となった会社法と企業法との相互理解を深めることができるよう工夫を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

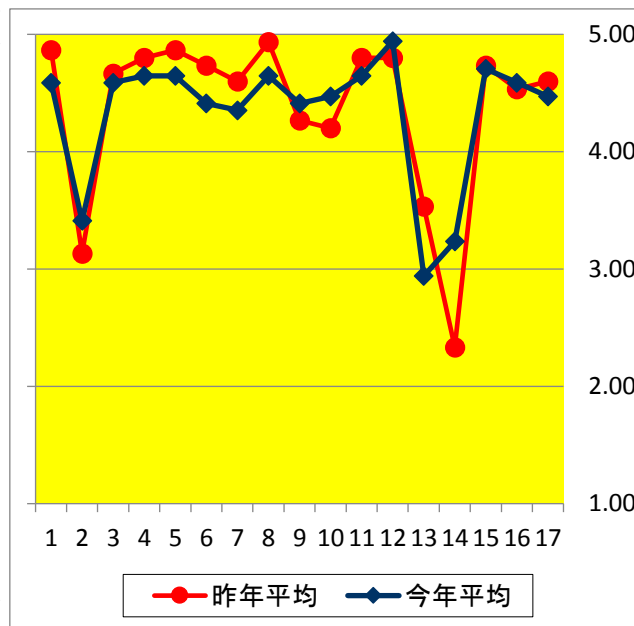
会社法では、広い内容を扱う中であって、それらを何らかのトピックスでくくって扱うことで、その広い内容をより効率的かつ興味深いものとした。たとえば、株主総会の手続きというものはそのものは単調な授業になりがちであるが、同じ会議対である取締役会の手続きと比較しながら扱うことで、両者の特徴がよりはっきりと表れ、それぞれの理解の助けにもなり、広い内容の授業を扱うに当たっても時間を短縮できる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度は上記で示したように特殊な状況であったが、企業法と会社法との連携を強く心がけて相互の理解が深まるよう、効率的な授業を行った。しかしながら、当該年度に企業法と会社法を受講した学生は、次につながる上級会社法の受講には、1年間というブランクが生じてしまう。上級会社法との連携についても工夫をする必要がある。

科 目	法人税法			
配当年次	1	開講時限	春火1	
受講者数	18	回答者数	17	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.87	4.59	5	5	4
2	3.13	3.41	3	4	3
3	4.67	4.59	5	5	4
4	4.80	4.65	5	5	4
5	4.87	4.65	5	5	4
6	4.73	4.41	4・5	5	3
7	4.60	4.35	5	5	3
8	4.93	4.65	5	5	4
9	4.27	4.41	4・5	5	3
10	4.20	4.47	4	5	4
11	4.80	4.65	5	5	4
12	4.80	4.94	5	5	4
13	3.53	2.94	2・3	5	1
14	2.33	3.24	2	5	2
15	4.73	4.71	5	5	4
16	4.53	4.59	5	5	4
17	4.60	4.47	4	5	4
回答者数	15	17			



受講生の傾向

受講生の3分の2は税理士志望者であり、残りが公認会計士志望者であった。今年度のアンケートのNo.13と14の結果から、本年度の受講生は昨年度の受講生と異なり、予習よりも復習にウェイトを置いていたことを確認することができた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

まず、講義レジュメに公認会計士試験の過去問を解くためのポイントを記載し、受講生が論述しやすいよう情報提供を行った。次に、講義では受講生に条文集を貸与し、条文集を出来る限り多く利用させる機会を与えた。さらに、判例に関する課題レポートには、必ず取引図を描かせ、その図の中に争点となる条文番号を付すよう繰り返し指導した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

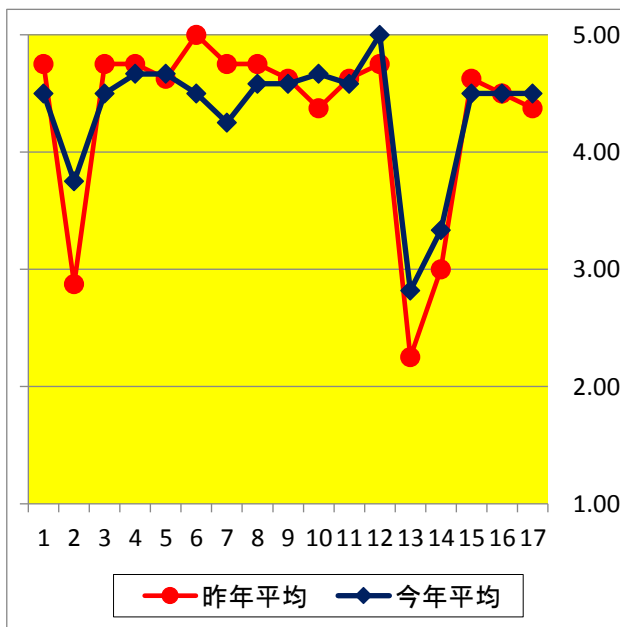
定期試験を通じて、受講生が条文集を使って、うまく答えを組み立てられないことが確認できた。そこで、公認会計士試験の過去問を題材として、受講生に文章を書くトレーニングをさせるべく、そのための時間を授業内で確保する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

公認会計士試験における法人税法の近年の傾向は、条文の当てはめが中心となっている。そこで、受講生にはまず法人税法の条文体系を最初に解説し、次に公認会計士試験の過去問を題材に条文集を使った当てはめのトレーニングを行うようにしたい。

科 目	上級税務会計論			
配当年次	1	開講時限	春木4	
受講者数	16	回答者数	12	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.75	4.50	5	5	3
2	2.88	3.75	3・4	5	3
3	4.75	4.50	5	5	3
4	4.75	4.67	5	5	3
5	4.63	4.67	5	5	4
6	5.00	4.50	4・5	5	4
7	4.75	4.25	4・5	5	3
8	4.75	4.58	5	5	3
9	4.63	4.58	5	5	4
10	4.38	4.67	5	5	4
11	4.63	4.58	5	5	3
12	4.75	5.00	5	5	5
13	2.25	2.82	2・3	5	1
14	3.00	3.33	2	5	2
15	4.63	4.50	5	5	3
16	4.50	4.50	5	5	3
17	4.38	4.50	5	5	3
回答者数	8	12			



受講生の傾向

受講生の3分の2は税理士志望者であり、残りは公認会計士志望者であった。ただ、税務会計の既修者は少なく、アンケートのNo.2の結果が示す通り、授業の進みが速いと感じた学生が多かったようである。一方、アンケートのNo.13と14の結果から、本年度の受講生の予習復習の時間は、昨年度の受講生に比べて多いことを確認することができた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

公認会計士試験における法人税法の計算項目の拡大に対応し、重要度の高いものから優先して授業を進めた。また、優先順位の低いものについては、計算に必要となる基本事項のみを講義することにし、それ以外の情報は講義レジュメに落とし込み、時間の確保に努めた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

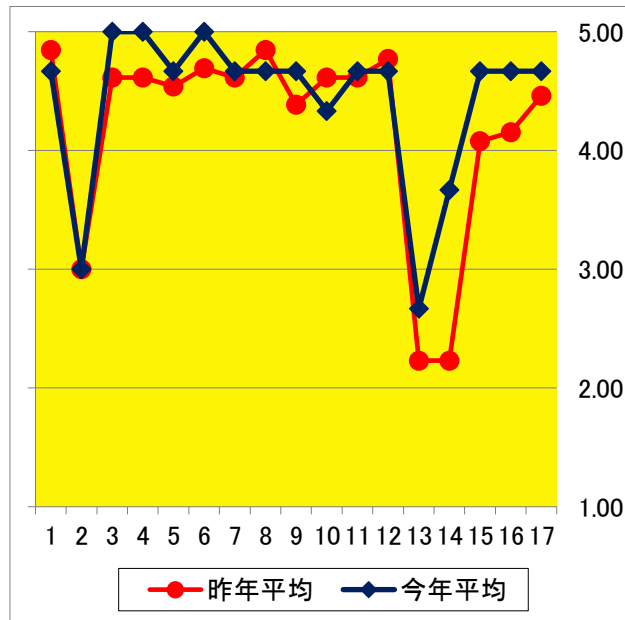
公認会計士試験で取り扱われる法人税の計算項目が拡大してきている。これに対し、授業時間には制限がある。従って、重要度の高い項目にウェイトをかけて講義を行うなど、メリハリをつけた対応をとっていきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

公認会計士試験における法人税法の計算項目は広く、次年度もこれに対応する必要がある。重要度の高い項目にウェイトをかけて講義を行いつつ、需要度の低い項目については講義レジュメのさらなる充実により対応したい。

科 目	特殊講義(資本市場論)＜資本市場論＞			
配当年次	2	開講時限	春水2	
受講者数	3	回答者数	3	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.85	4.67	5	5	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.62	5.00	5	5	5
4	4.62	5.00	5	5	5
5	4.54	4.67	5	5	4
6	4.69	5.00	5	5	5
7	4.62	4.67	5	5	4
8	4.85	4.67	5	5	4
9	4.38	4.67	5	5	4
10	4.62	4.33	5	5	3
11	4.62	4.67	5	5	4
12	4.77	4.67	5	5	4
13	2.23	2.67	1・2・5	5	1
14	2.23	3.67	3	5	3
15	4.08	4.67	5	5	4
16	4.15	4.67	5	5	4
17	4.46	4.67	5	5	4
回答者数	13	3			



受講生の傾向

受講生3名、内訳は公認会計士志望者1名、留学生2名であった。留学生については語学力が壁となって講義、課題演習の取り組みともに一部苦労している印象を受けた。
出席率については補講となった回を除くと概ね高く、また講義中の質疑についても前向きに発言するよう取り組んでいる様子があり、講義への関心の高さが感じられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義内容に関する既学習内容、受講生の要望について幅があるため、講義では受講生が興味を持ちやすい事例等の演習課題を課し、各人の理解程度に応じて適宜質疑に応じるよう努めた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

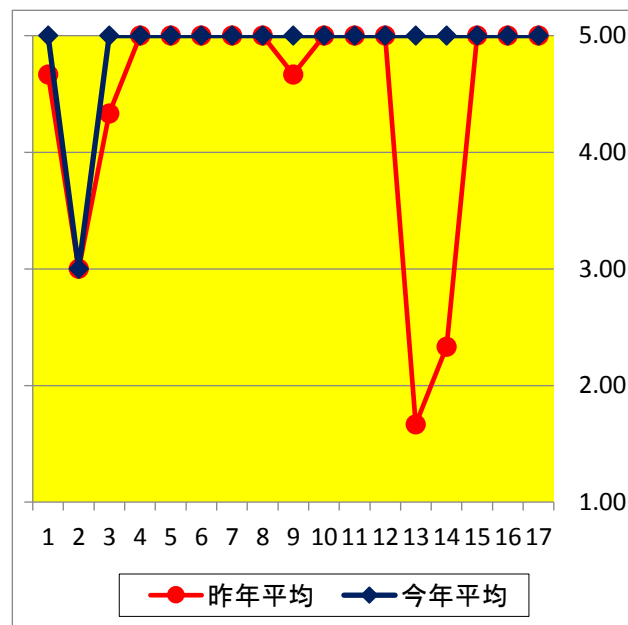
該当なし(担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

講義内容に関する既学習内容、受講生の要望を把握して、事例等の演習課題を課して各人の理解程度に応じて適宜質疑に応じるよう努める。また、課題における事例の選定については、受講生が興味を持ちやすい事例、タイムリーな事例、実務上有用な事例などを中心に選定して講義を行うよう対応をしていきたい。

科 目	特殊講義(負債・資本金論)＜負債・資本金論＞			
配当年次	2	開講時限	春水1	
受講者数	1	回答者数	1	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.33	5.00	5	5	5
4	5.00	5.00	5	5	5
5	5.00	5.00	5	5	5
6	5.00	5.00	5	5	5
7	5.00	5.00	5	5	5
8	5.00	5.00	5	5	5
9	4.67	5.00	5	5	5
10	5.00	5.00	5	5	5
11	5.00	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	1.67	5.00	5	5	5
14	2.33	5.00	5	5	5
15	5.00	5.00	5	5	5
16	5.00	5.00	5	5	5
17	5.00	5.00	5	5	5
回答者数	3	1			



受講生の傾向

受講者が一人であった。昨年度もまじめな3名が回答していたが、今年度の受講生は予習・復習ともに2時間以上という理想的な学習を行っていた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

履修者が1名なので、例年のように「前半は答案練習、後半は全体討論」というスタイルを継続できなかった。反面、履修者が苦手とする領域を重点的に指導し、その後は、特に金融商品(主に負債)の領域を報告させ、解説を加えた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

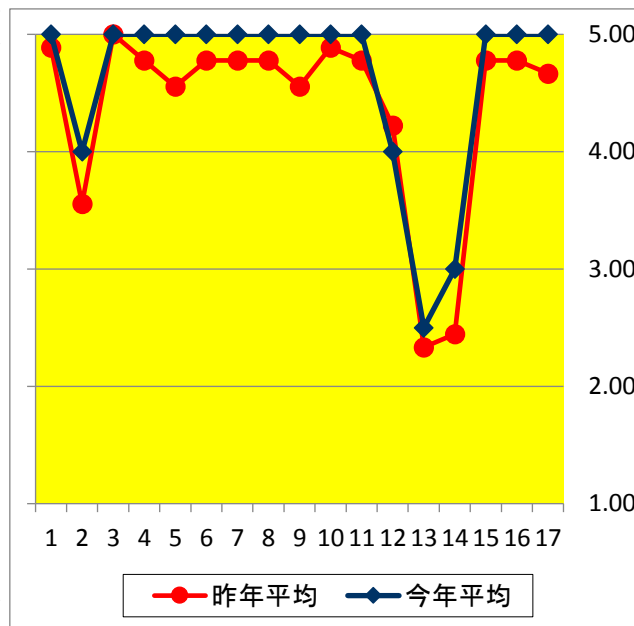
今年度の成績が良いので、次年度も効果の出やすい討論中心の講義としたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

履修者の人数に合わせて対応を変えたい。今年度が特別かもしれないので、例年の方式に戻すか否かは、履修者と相談しながら決める。いずれにしろ、カバーする範囲は変わらない。

科 目	特殊講義(不正摘発監査論)＜不正摘発監査論＞			
配当年次	2	開講時限	春土2	
受講者数	3	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.89	5.00	5	5	5
2	3.56	4.00	3・5	5	3
3	5.00	5.00	5	5	5
4	4.78	5.00	5	5	5
5	4.56	5.00	5	5	5
6	4.78	5.00	5	5	5
7	4.78	5.00	5	5	5
8	4.78	5.00	5	5	5
9	4.56	5.00	5	5	5
10	4.89	5.00	5	5	5
11	4.78	5.00	5	5	5
12	4.22	4.00	3・5	5	3
13	2.33	2.50	2・3	3	2
14	2.44	3.00	3	3	3
15	4.78	5.00	5	5	5
16	4.78	5.00	5	5	5
17	4.67	5.00	5	5	5
回答者数	9	2			



受講生の傾向

今年度は受講生が3名と少なく、また、比較的大人しい受講生が揃っている印象で、授業が淡々と進行していたように感じる。出席率は84%(平均)であり、一度も欠席しなかった受講生もあり、比較的熱心に教室まで足を運んでくれた。土曜日の午前に実施しているため、公認会計士試験を目指す受講生が模試等で一定程度欠席する状況は、例年と変わらない。

監査の理論を相当程度理解している受講生ばかりであったため、内容面では受講生の学習レベルと一致していると認識している。その意味において、講義の内容と実施時期、対象とする受講生は想定通りであったと考える。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度と同様に、企業活動と監査の現場を具体的に思い描けるような講義とすることを心掛けて内容を構成し、講義を進めた。双方向の意思疎通を通じて、監査の理論がどのように実務に応用できるかを考えてもらえるよう工夫した。また、監査人として不正に向き合う際の心構えを理解してもらうことも重きを置いて講義を進めた。

ただ、残念ながら、双方向の意思疎通については、受講生の特性を踏まえた対応が十分だったとは言い難い。時間との兼ね合いはあるものの、考える時間をより多く確保できる進め方を工夫する余地があると考えている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

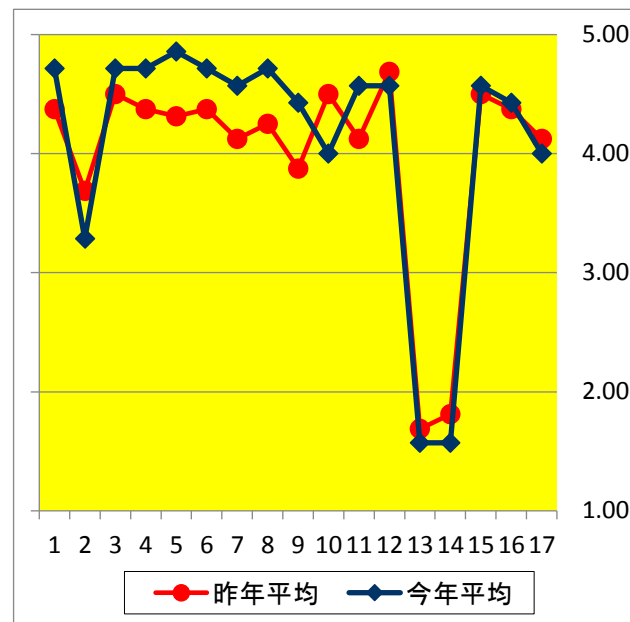
昨年の経験を踏まえた取り組みは、想定した通りの成果を上げていると考えており、引き続き実施していく所存である。さらに、時間の制約がある中でどこまで実現できるか未知数ではあるが、対話によって考える力の向上を目指したい。知っている知識を披露するだけでなく、その知識を活用して自分なりの答えを見つける努力を積み重ねることで、より応用力が身に付くことを期待する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度の講義で工夫した点については、想定通りの成果を上げているとの認識であるため、引き続き実施していく。すなわち、理論と実践の相違、実践における理論の応用、監査人として大事にすべき心構えを、具体例を挙げながら分かり易く説明することである。双方向のコミュニケーションを通じて、受講生により考えてもらう取り組みは、講義内の場面と設例を工夫することで、より高度化を図っていきたい。

科 目	特殊講義(企業マネジメントと会計)		
配当年次	1	開講時限	春前月6～7
受講者数	11	回答者数	7

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.38	4.71	5	5	4
2	3.69	3.29	3	4	3
3	4.50	4.71	5	5	4
4	4.38	4.71	5	5	4
5	4.31	4.86	5	5	4
6	4.38	4.71	5	5	4
7	4.13	4.57	5	5	3
8	4.25	4.71	5	5	4
9	3.88	4.43	4	5	4
10	4.50	4.00	4	5	3
11	4.13	4.57	5	5	3
12	4.69	4.57	5	5	4
13	1.69	1.57	2	2	1
14	1.81	1.57	1	3	1
15	4.50	4.57	5	5	4
16	4.38	4.43	4	5	4
17	4.13	4.00	3・5	5	3
回答者数	16	7			



受講生の傾向

聴講生6名、院生5名、計11名の受講者となり、昨年より規模が半分程度に少ない状況であった。授業に対しては前向きな取り組みを見せる受講生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

初心者でも抵抗がないようわかりやすい解説を心がけた。また、社会人の受講生の従事する業務に関連するトピックなどを積極的に取り入れた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

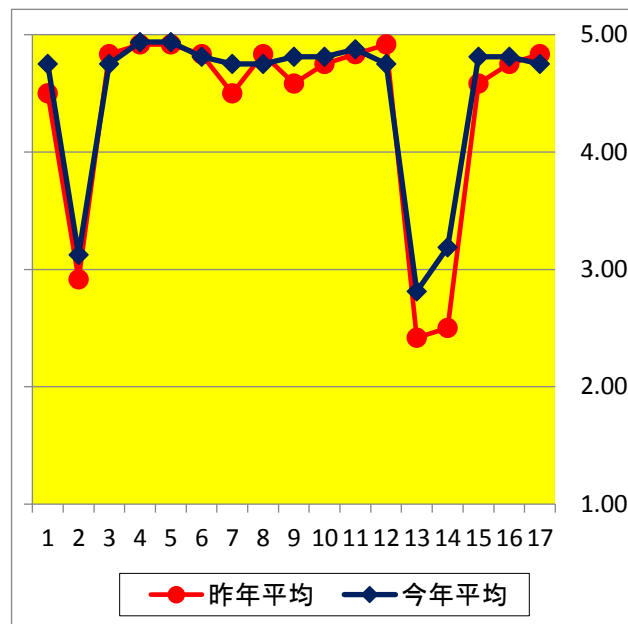
4人の班編成(社会人・学生の混合チーム)でのグループワークは有効であったように思うので、これは続けたい。一方、会計の知識にばらつきがあり、会計の初心者に対しては基本的なことを説明したにも拘わらず、難しいという印象を取り去ることはできなかったように思う。レベルに差のある受講生への対応は難しいが、基礎的なところから、高度なところまでバランスよく盛り込むことが必要だと思う。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

内容を絞って、速度を抑え、丁寧に説明することが有効と思われる。授業の間に何度か確認のための振り返り(演習等を含む)を挟むことも有用と思われる。

科 目	上級会社法			
配当年次	2	開講時限	春月3	
受講者数	18	回答者数	16	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.75	5	5	4
2	2.92	3.13	3	4	3
3	4.83	4.75	5	5	4
4	4.92	4.94	5	5	4
5	4.92	4.94	5	5	4
6	4.83	4.81	5	5	4
7	4.50	4.75	5	5	4
8	4.83	4.75	5	5	4
9	4.58	4.81	5	5	4
10	4.75	4.81	5	5	4
11	4.83	4.88	5	5	4
12	4.92	4.75	5	5	4
13	2.42	2.81	3	5	1
14	2.50	3.19	3	5	2
15	4.58	4.81	5	5	4
16	4.75	4.81	5	5	4
17	4.83	4.75	5	5	4
回答者数	12	16			



受講生の傾向

上級会社法は、公認会計士試験や企業法をとりわけ得意にしたい学生が受講する科目であるが、今年度はそれにもかかわらず18名の受講生があった。レベルとしては公認会計士試験レベルの高度なものを扱い、かつ企業法はもちろん会社法を十分に理解していることを前提とする授業であるから、それを認識している受講生であるので、全体として授業に対して熱心で授業態度もよく積極的であった。また、授業進度・レベルについても問題なかったようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

本科目は、企業法関連の科目としては、人数は少ない方であるので、特に対話や論文作成指導などを中心として授業を行うことによって各学生に対応するというを行い、極力一人一人をきめ細かく指導するようにして、個々の理解を深めることを心掛けた。それと同時に、それぞれの学生の能力を見極めながら進度およびレベルについてバランスをとるように授業を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

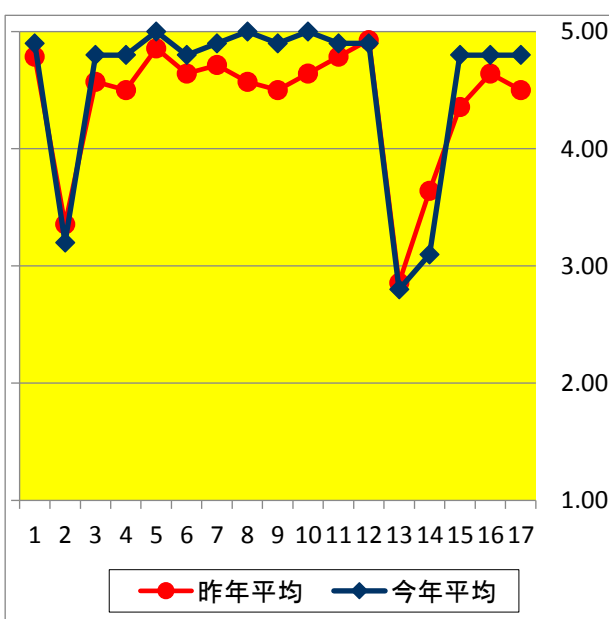
これまで個人指導的に対話および論文指導を行ってきたが、若干受講者が増えてもきめ細かな指導を継続していきたい。受講生それぞれのレベルや理解度を把握するように心がけるとともに、それを実行するためにもなるべく授業中に学生との対話を心がけたい。また、上級会社法は、会社法から続く科目であるので、なるべく会社法で扱うところは会社法で、上級で扱うところは上級でという厳格な区分のもとで授業を行いたい。今年度のように受講生が少ないようであれば、受講生のレベルや要望に極力合わせた授業を行いたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

上記において示したように、本授業では対話や論文作成指導を通じて、各受講生の学習進度やレベルを把握して、きめ細かな指導を行っていききたい。そして、企業法および会社法と継続する科目であるので、これまでの各受講生の学習進度・レベルや弱点等を把握したうえで、効率的な授業を進める工夫を行いたい。

科 目	基本会計プログラム演習		
配当年次	1	開講時限	春火1
受講者数	10	回答者数	10

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.79	4.90	5	5	4
2	3.36	3.20	3	5	3
3	4.57	4.80	5	5	4
4	4.50	4.80	5	5	4
5	4.86	5.00	5	5	5
6	4.64	4.80	5	5	4
7	4.71	4.90	5	5	4
8	4.57	5.00	5	5	5
9	4.50	4.90	5	5	4
10	4.64	5.00	5	5	5
11	4.79	4.90	5	5	4
12	4.93	4.90	5	5	4
13	2.86	2.80	1	5	1
14	3.64	3.10	2・3・5	5	1
15	4.36	4.80	5	5	4
16	4.64	4.80	5	5	4
17	4.50	4.80	5	5	4
回答者数	14	10			



受講生の傾向

今年度は、春学期(例年は秋学期)開講であったこともあってか、また1時限開講であったこともあってか、受講者数は少なく、受講生における留学生の割合が相対的に低く、かつ、例年以上に真摯に受講する受講生がほとんどであったと思われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の「今後の対応」を受けた講義内容で理解を深めるための板書を増やすだけでなく、受講生の人数が少ないこともあり、受講生の個々人の理解度を把握しやすく、机間巡回時に正確に理解して理解度を深めるための追加の説明を行うことができた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

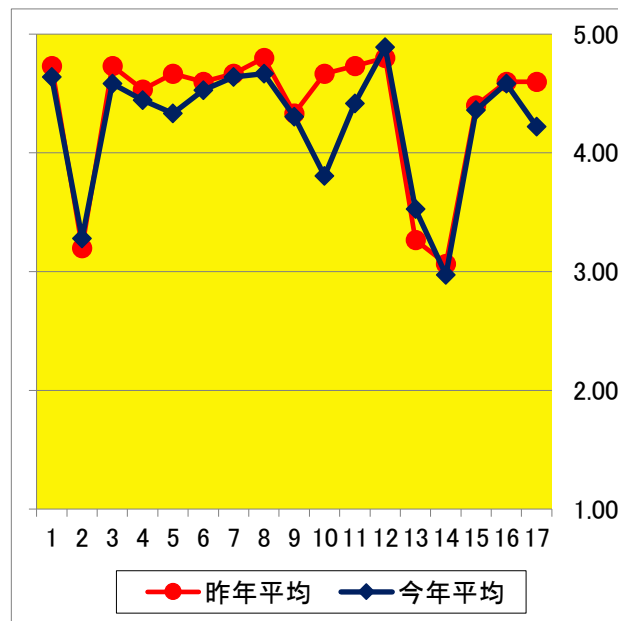
留学生への対応(追加的な板書や机間巡回)だけでなく、受講生全体が講義のポイントや位置づけを把握しやすいように、丁寧な説明と板書(配布資料を含む)などの工夫を講じるつもりである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講者数が例年どおりに戻った場合でも、今年度と同様に、受講生の個々人の理解度を把握するよう留意し、机間巡回時に正確に理解して理解度を深めるための追加の説明や、追加的な受講生全体への説明(板書を含む)を行い、ノートにまとめるよう促すなどの工夫を講じるつもりである。

科 目	会計事例研究		
配当年次	1	開講時限	春水2
受講者数	46	回答者数	36

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.73	4.64	5	5	3
2	3.20	3.28	3	5	3
3	4.73	4.58	5	5	3
4	4.53	4.44	5	5	3
5	4.67	4.33	5	5	3
6	4.60	4.53	5	5	3
7	4.67	4.64	5	5	3
8	4.80	4.67	5	5	3
9	4.33	4.31	5	5	3
10	4.67	3.81	4	5	1
11	4.73	4.42	5	5	3
12	4.80	4.89	5	5	4
13	3.27	3.53	3	5	1
14	3.07	2.97	3	5	1
15	4.40	4.36	5	5	3
16	4.60	4.58	5	5	3
17	4.60	4.22	4	5	3
回答者数	15	36			



受講生の傾向

今年度は受講生が47名と多く、8グループに分けて、グループディスカッションを実施した。また、留学生の割合が昨年と比較して高かったため、各グループに均等に配属してグループ内のコミュニケーションを図った。会計上の主要な論点について、グループディスカッションを行い、結果を発表してもらった。全員に発表の機会を与えたが、非常にまじめで熱心に取り組んでいた。今回も、留学生の中には日本語での発表に苦労している者が見受けられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

最新の会計実務事例とするため、テーマを一部入れ替えてディスカッションと発表を行ってもらった。昨年に引き続きディスカッション形式のアクティブラーニングを取り入れたが、受講生が昨年の倍と多かったため、全員に均等に発表の機会があるように配慮した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

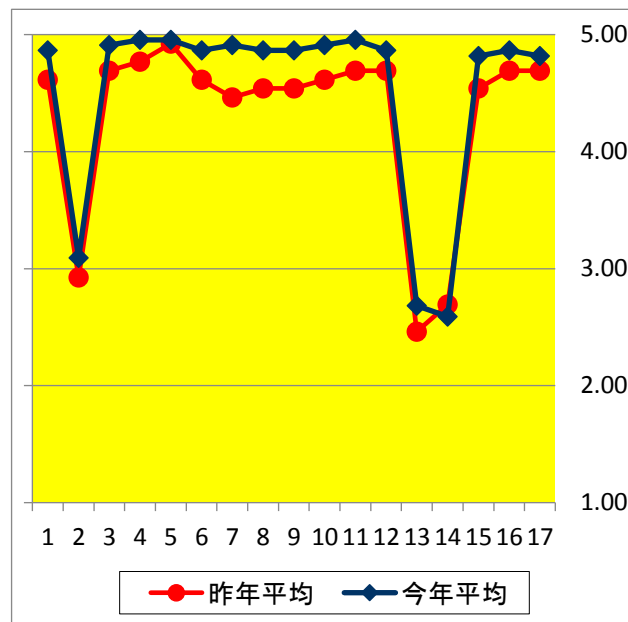
グループでのディスカッションにすると個々の受講生の実力が見えにくくなることもあるので、全員に発表と書記と司会の役割を分担してもらうとともに、個人での分析発表の機会を増やすことを検討する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生の人数を勘案しながら、グループの規模や発表の回数・時間を調整して、個々の受講生の実力を見えやすくするように検討する。

科 目	会社経理実務		
配当年次	1	開講時限	春土1
受講者数	28	回答者数	22

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.62	4.86	5	5	4
2	2.92	3.09	3	5	3
3	4.69	4.91	5	5	4
4	4.77	4.95	5	5	4
5	4.92	4.95	5	5	4
6	4.62	4.86	5	5	4
7	4.46	4.91	5	5	4
8	4.54	4.86	5	5	4
9	4.54	4.86	5	5	3
10	4.62	4.91	5	5	4
11	4.69	4.95	5	5	4
12	4.69	4.86	5	5	3
13	2.46	2.68	2	5	1
14	2.69	2.59	2	5	1
15	4.54	4.82	5	5	4
16	4.69	4.86	5	5	4
17	4.69	4.82	5	5	4
回答者数	13	22			



受講生の傾向

今年度は出席率が全体で92%（平均）、M1に限れば98%（平均）と非常に高く、教室に足を運んで熱心に講義に参加してくれた受講生が多かったことは特筆すべき点である。出席自体は評価対象としていないが、出席率が高い受講生は好成績を収めており、この点は昨年度と同様の傾向を示している。

例年、全体に占める留学生の割合が多いのもこの講義の特徴と認識しているが、今年度も約45%が留学生であった。留学生は語学力のハンディキャップによって、講義の理解、課題への対応に苦慮することが少なからずあるが、今年度もその傾向に変わりはない。ただ、総合成績の上では、留学生でも非常に高い結果を残している受講生が相当程度存在し、大学院での学びの成果と努力の跡が見て取れた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

各回の講義が特定の範囲をカバーし完結する構成を踏まえ、昨年度に引き続き、全15回の講義を通して会社の活動全体をカバーしていることを意識させることを心掛けた。会社の活動は、たとえば営業を伸ばすために調達や製造、広告宣伝等の活動が有機的に結びついていることを理解してもらい、それを経理が数字として把握、活用することの意義を考えてもらうことが狙いであった。

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

引き続き現場の経理実務がイメージできるような説明の仕方を模索し、試行錯誤を繰り返す。

また、講義中、予習および復習の組み合わせでより深く学んでもらえるような講義の進め方、課題の設定を工夫する必要がある。

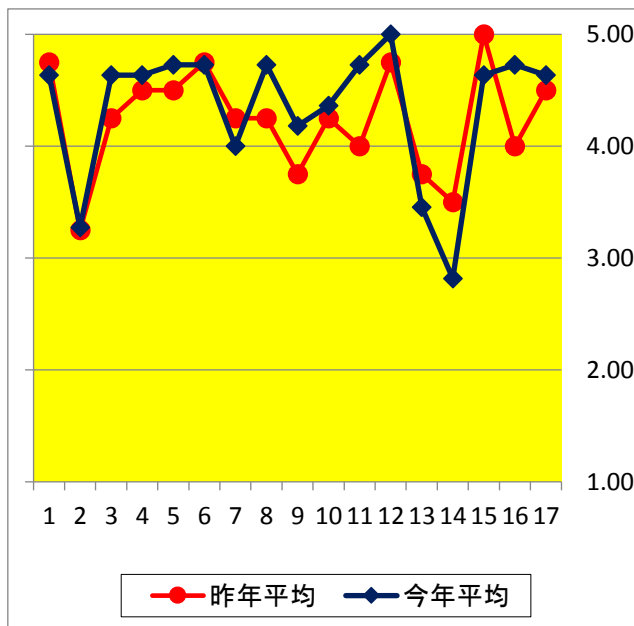
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

経理実務において、現場とのコミュニケーションを通じた現状の理解が欠かせない点を強調することは、さらなる説明の仕方に工夫を重ねつつこの講義における主眼として大切にしていきたい。

今年度は昨年度の反省を踏まえ、予習、講義中、復習のバランスを模索したものの、最適化に向けた検討とそれを踏まえた実践が十分に出来なかった。この点は引き続き対応が必要との認識である。

科 目	論文指導(導入)(中村クラス)			
配当年次	1	開講時限	春月5	
受講者数	11	回答者数	11	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.75	4.64	5	5	4
2	3.25	3.27	3	4	3
3	4.25	4.64	5	5	4
4	4.50	4.64	5	5	4
5	4.50	4.73	5	5	4
6	4.75	4.73	5	5	4
7	4.25	4.00	3・5	5	3
8	4.25	4.73	5	5	4
9	3.75	4.18	5	5	3
10	4.25	4.36	4	5	4
11	4.00	4.73	5	5	4
12	4.75	5.00	5	5	5
13	3.75	3.45	3	5	2
14	3.50	2.82	3	5	1
15	5.00	4.64	5	5	3
16	4.00	4.73	5	5	4
17	4.50	4.64	5	5	4
回答者数	4	11			



受講生の傾向

受講生は全て、税理士試験の税法科目免除を希望する学生であった。また、受講生のうち7名は税務を含めた社会人経験があり、彼らが中心となって講義では活発な質疑応答が行われていた。ただ、アンケートのNo.13と14の結果から、本年度の受講生は、昨年度の受講生と比べて、予習復習の時間が少ないことを確認することができた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

第一回講義で受講生のニーズを確認し、所得税法の基本書を輪読させることにした。また、質疑応答を活発化させるために、報告者以外の受講生を2人ずつのペアにし、ペア単位で報告者に質問を行わせる方式を採用した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

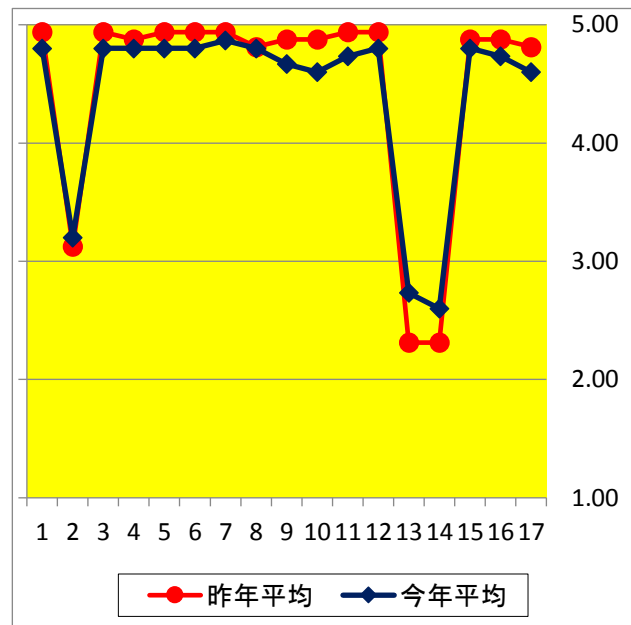
輪読する租税法の文献は、受講生の意向を確認した上で選定したい(最近では、所得課税だけでなく、消費課税や資産課税に関心のある受講生が増えているため)。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今回採用したペア方式は、受講生間の質疑応答を活発化させることに貢献した。次年度もペア方式を採用したい。

科 目	ディスクロージャー実務			
配当年次	2	開講時限	春水3	
受講者数	15	回答者数	15	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.94	4.80	5	5	4
2	3.13	3.20	3	5	3
3	4.94	4.80	5	5	4
4	4.88	4.80	5	5	4
5	4.94	4.80	5	5	4
6	4.94	4.80	5	5	4
7	4.94	4.87	5	5	4
8	4.81	4.80	5	5	4
9	4.88	4.67	5	5	3
10	4.88	4.60	5	5	3
11	4.94	4.73	5	5	3
12	4.94	4.80	5	5	4
13	2.31	2.73	2	5	1
14	2.31	2.60	2	5	1
15	4.88	4.80	5	5	4
16	4.88	4.73	5	5	3
17	4.81	4.60	5	5	3
回答者数	16	15			



受講生の傾向

受講生15名、内訳は公認会計士試験合格者2名、公認会計士志望者2名、税理士志望者2名、留学生9名、留学生は米国CPA、中国CPA、企業人の志望者が多数であった。講義内容に関する既学習内容、受講生の要望について幅があり、留学生の一部については語学力が壁となって講義、課題演習の取り組みともに一部苦労している印象を受けた。出席率については概ね高く、講義への関心の高さが見て取れた。講義中の質疑、参加姿勢については、前向きに発言するよう取り組んでいる者、受け身の姿勢の者のいずれもいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

該当なし(担当者変更)

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

該当なし(担任者変更)

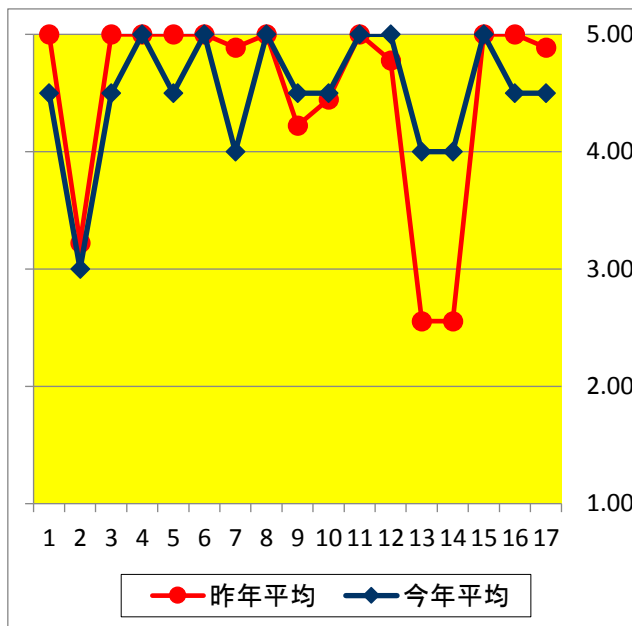
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

講義中の質疑について、前向きに発言するよう取り組んでいる者、受け身の姿勢の者のいずれもいたが、講義形式では全体の進捗管理が難しくなるため、講義中に班分けしたうえでグループワークと発表の機会を何度か設け、班分けにおいて既学習内容や受講姿勢が前向き・受け身の者を混在させることにより、受け身の者にも課題に積極的に関与しやすい形式で進めることで、受講生に一定の満足度が確保されたように見受けられることから、今後も継続していきたい。

また、講義内容に関する既学習内容、受講生の要望を把握して、応用・実践的な事例等の演習課題を課して各人の理解程度に応じて適宜質疑に応じるよう努める。また、課題における事例の選定については、受講生が興味を持ちやすい事例、タイムリーな事例、実務上有用な事例などを中心に選定して講義を行うよう対応をしていきたい。

科 目	ソリューション・イン・プロフェッショナル(三島クラス)			
配当年次	2	開講時限	春火5	
受講者数	2	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.50	4・5	5	4
2	3.22	3.00	3	3	3
3	5.00	4.50	4・5	5	4
4	5.00	5.00	5	5	5
5	5.00	4.50	4・5	5	4
6	5.00	5.00	5	5	5
7	4.89	4.00	3・5	5	3
8	5.00	5.00	5	5	5
9	4.22	4.50	4・5	5	4
10	4.44	4.50	4・5	5	4
11	5.00	5.00	5	5	5
12	4.78	5.00	5	5	5
13	2.56	4.00	3・5	5	3
14	2.56	4.00	3・5	5	3
15	5.00	5.00	5	5	5
16	5.00	4.50	4・5	5	4
17	4.89	4.50	4・5	5	4
回答者数	9	2			



受講生の傾向

ソリューションという科目の特性上、履修者数は2人と少ないものであった。また、今年度はカリキュラム編成上、旧カリに該当するため、そもそも受講登録できる学生に制限もあった。必修ではなくかつ教員を選択できる本授業を履修した2人の学生は基本的に授業に対する参加意欲も高く熱心であった。また、2人の学生の学習目的が大きく異なっていたため、それぞれに別のテーマを設定して、授業を進行した。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

上記の通り、受講生が2人で、かつテーマも別設定としたため、基本的に個人指導とし、かなりきめ細かな指導をすることができた。個人の学習進度や準備状況に合わせて、臨機応変に対応できるよう心掛けた。それぞれに課した内容としては、やや難解なケーススタディであったり、論文作成能力を向上させるものであったり、各学生に適したものとすることを試みた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

受講生の数が11人程度となると、個人指導以外に半形式でのグループディスカッションやプレゼンテーション形式で授業が行えるようになり、これがさらに個々の学生の能力をアップさせることにつながると思う。今後は学生間における討論も積極的に行われるよう、課題や教材の選定から授業方法に至るまで、考えていきたい。

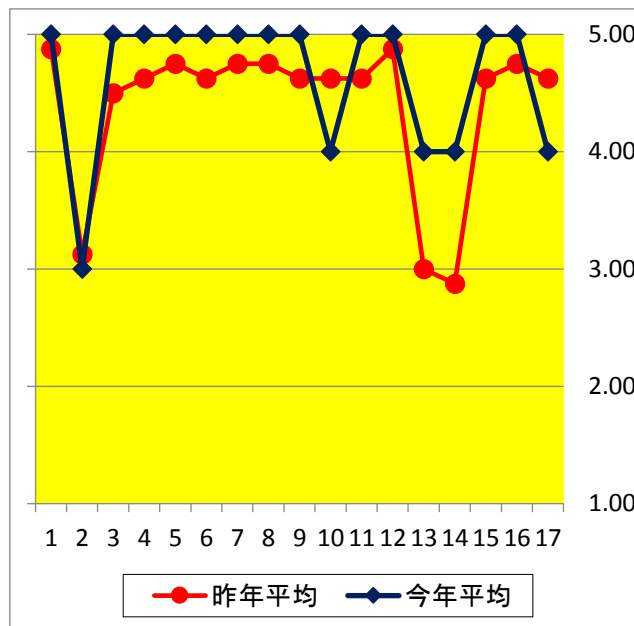
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後、本科目は旧カリの廃止に伴い消滅する。しかしながら、ソリューション科目は、基本的には演習科目として名称を変えて、新カリに引き継がれるので、そこでこの授業の経験を生かしていきたい。そこでは、受講生数やその学習進度・目的に応じて、グループ学習や個別指導等適切な方法を選択して、指導を行うことが必要となる。

Ⅲ-(2). 2019 年度授業評価アンケート(秋学期)結果概要

科 目	中級商業簿記(B)		
配当年次	1	開講時限	秋木5
受講者数	2	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.88	5.00	5	5	5
2	3.13	3.00	3	3	3
3	4.50	5.00	5	5	5
4	4.63	5.00	5	5	5
5	4.75	5.00	5	5	5
6	4.63	5.00	5	5	5
7	4.75	5.00	5	5	5
8	4.75	5.00	5	5	5
9	4.63	5.00	5	5	5
10	4.63	4.00	3・5	5	3
11	4.63	5.00	5	5	5
12	4.88	5.00	5	5	5
13	3.00	4.00	3・5	5	3
14	2.88	4.00	3・5	5	3
15	4.63	5.00	5	5	5
16	4.75	5.00	5	5	5
17	4.63	4.00	3・5	5	3
回答者数	8	2			



受講生の傾向

受講生は、再履修の学生と入学前履修の学生であり、全員が留学生であった。いずれも日商簿記2級程度の理解が不足していたが、受講態度は真面目で意欲的であった。理解を深めようとする気持ちが強く、次第に要領よく問題を解けるようになっていった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

簿記一巡の流れを明確に意識するように指導し、そのように講義資料も工夫した。とくに、取引の仕訳は、パターンとして「覚える」のではなく、何が起きているのかを「考える」ように指導した。また、上級レベルの内容を理解する上で重要な論点は、優先的に取り上げて講義した。さらに、講義中は問題演習に重点をおき、定期的にミニテストも行い、個人の習熟度に応じて個別指導を行うなど、全員の理解を確認して回った。

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

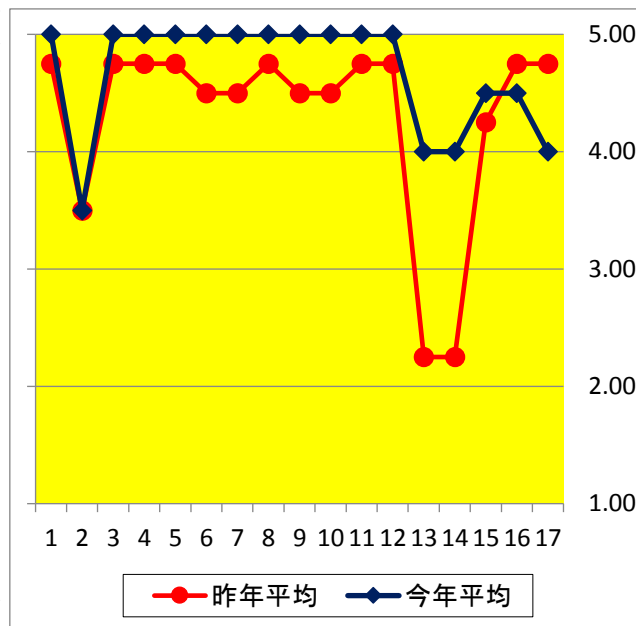
受講生の大半が留学生であり、日本語でのコミュニケーションや理解にも差があることから、アンケート結果は毎年安定しないことが多い。今年度のアンケート結果は概ね高いポイントを得ており、全体的な講義展開としては良い感触を得ている。次年度も継続することにしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度のアンケート結果は概ね高いポイントを得ており、全体的な講義展開としては良い感触を得ている。次年度も継続することにしたい。

科 目	中級工業簿記(B)			
配当年次	1	開講時限	秋木2	
受講者数	2	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.75	5.00	5	5	5
2	3.50	3.50	3・4	4	3
3	4.75	5.00	5	5	5
4	4.75	5.00	5	5	5
5	4.75	5.00	5	5	5
6	4.50	5.00	5	5	5
7	4.50	5.00	5	5	5
8	4.75	5.00	5	5	5
9	4.50	5.00	5	5	5
10	4.50	5.00	5	5	5
11	4.75	5.00	5	5	5
12	4.75	5.00	5	5	5
13	2.25	4.00	3・5	5	3
14	2.25	4.00	3・5	5	3
15	4.25	4.50	4・5	5	4
16	4.75	4.50	4・5	5	4
17	4.75	4.00	3・5	5	3
回答者数	4	2			



受講生の傾向

本科目は、導入科目の再履修クラスである。受講生は真面目に授業に出席していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

前回の評価も比較的良好であったため、前回と同様の取り組みを継続するように留意した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

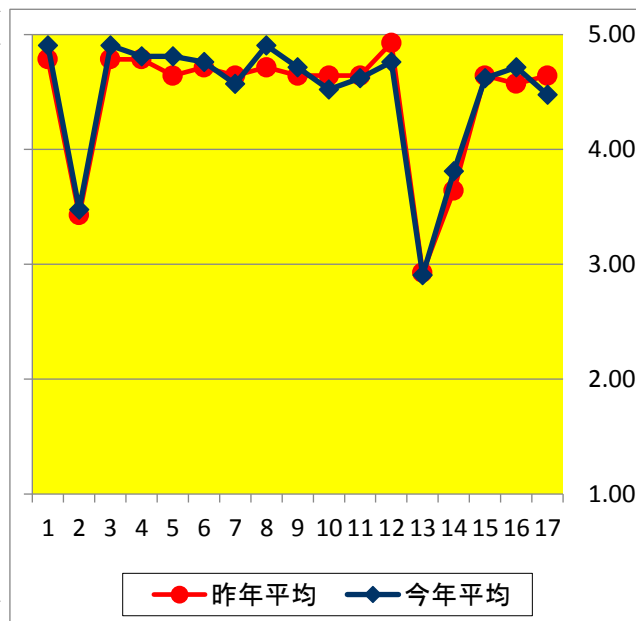
全体としては、評価点は昨年と大きく変わっていないと考えられる。そのため、今後も同様の取り組みを継続するつもりである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

該当なし(担任者変更)

科 目	上級簿記論<上級簿記>(B)			
配当年次	1	開講時限	秋木2	
受講者数	26	回答者数	21	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.79	4.90	5	5	4
2	3.43	3.48	3	5	3
3	4.79	4.90	5	5	4
4	4.79	4.81	5	5	4
5	4.64	4.81	5	5	3
6	4.71	4.76	5	5	4
7	4.64	4.57	5	5	3
8	4.71	4.90	5	5	4
9	4.64	4.71	5	5	4
10	4.64	4.52	5	5	3
11	4.64	4.62	5	5	4
12	4.93	4.76	5	5	3
13	2.93	2.90	1・4	5	1
14	3.64	3.81	5	5	1
15	4.64	4.62	5	5	3
16	4.57	4.71	5	5	4
17	4.64	4.48	5	5	3
回答者数	14	21			



受講生の傾向

受講生は、本科目を未履修の学生、再履修の学生、入学前履修の学生であった。未履修の学生が大半であったが、そのほとんどが春学期に導入科目(中級商業簿記)の履修を終えた留学生であった。講義展開は昨年度と同様であり、アンケート結果も昨年度と同様に概ね高いポイントを得ている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

春学期の本科目と同じく、講義中の説明は、テクニカルに「覚えて解く」のではなく、原理・原則に従って「考えて解く」ことを意識するように指導し、そのように講義資料も工夫した。また、複雑で細かな論点よりも、基本的で重要な論点を優先的に取り上げるようにした。問題演習の時間は、質問があれば即座に個々人の習熟度に応じて個別指導するなど、全員の理解を確認して回った。アンケート結果を見る限り、受講生のニーズと概ね合致していたと考えてよい。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

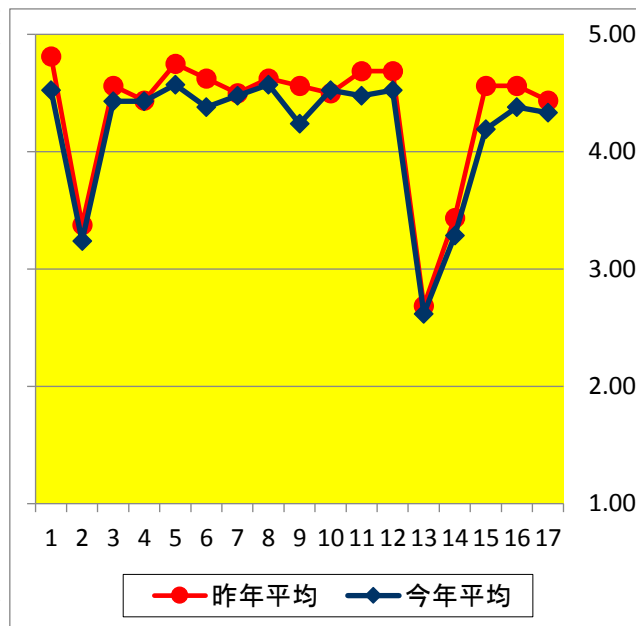
受講生の傾向にもよるが、今年度のアンケート結果は概ね高いポイントを得ており、全体的な講義展開としては良い感触を得ている。次年度も継続することにした。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度のアンケート結果は概ね高いポイントを得ており、全体的な講義展開としては良い感触を得ている。次年度も継続することにした。

科 目	上級原価計算論(B)			
配当年次	1	開講時限	秋水3	
受講者数	27	回答者数	21	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.81	4.52	5	5	3
2	3.38	3.24	3	5	3
3	4.56	4.43	5	5	2
4	4.44	4.43	5	5	2
5	4.75	4.57	5	5	3
6	4.63	4.38	5	5	2
7	4.50	4.48	5	5	3
8	4.63	4.57	5	5	3
9	4.56	4.24	5	5	1
10	4.50	4.52	5	5	3
11	4.69	4.48	5	5	2
12	4.69	4.52	5	5	2
13	2.69	2.62	2	5	1
14	3.44	3.29	3・4・5	5	1
15	4.56	4.19	5	5	2
16	4.56	4.38	5	5	3
17	4.44	4.33	4	5	3
回答者数	16	21			



受講生の傾向

基礎上がりの学生が多く、春学期よりは学力は全体的に下がったように思う。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
 計算力を育成すべく、演習を解く時間を多くした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

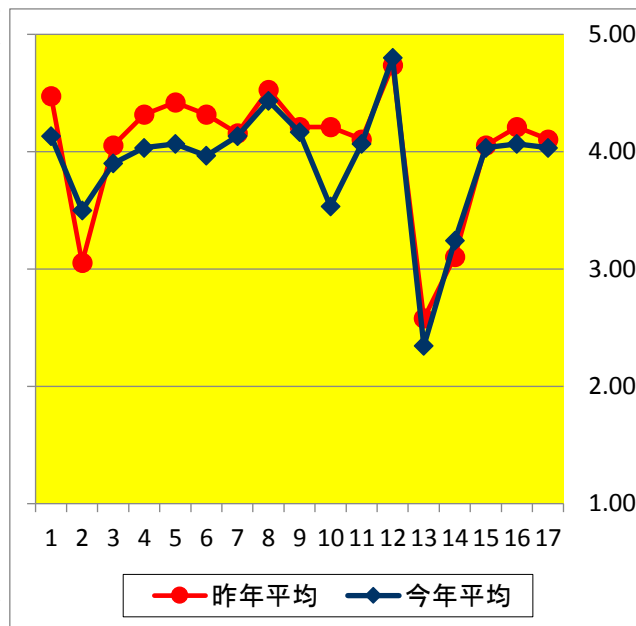
講義資料にさらに実務的な資料をとりいれて配布する。毎回心がけていることではあるが、できるだけ「例え」を入れながら話すことをさらに心がける。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

さらに満足度を高める講義にしたい。

科 目	上級管理算論(B)			
配当年次	1	開講時限	秋木4	
受講者数	40	回答者数	30	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.47	4.13	4	5	2
2	3.05	3.50	3	5	3
3	4.05	3.90	4	5	2
4	4.32	4.03	4・5	5	2
5	4.42	4.07	5	5	2
6	4.32	3.97	4	5	2
7	4.16	4.13	4	5	2
8	4.53	4.43	5	5	3
9	4.21	4.17	4	5	2
10	4.21	3.53	4	5	1
11	4.11	4.07	4	5	1
12	4.74	4.80	5	5	3
13	2.58	2.34	1	5	1
14	3.11	3.24	2・3・5	5	1
15	4.05	4.03	4	5	1
16	4.21	4.07	4	5	1
17	4.11	4.03	4	5	3
回答者数	19	30			



受講生の傾向

本講義は、会計専門職大学院の基本科目である。受講生は、全体として真面目に授業に出席して、計算演習に熱心に取り組んでいた。しかしながら、受講生間の知識には大きなばらつきが見られた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の評点が比較的良好であったことから、昨年度と同様の取り組みを継続するように留意した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

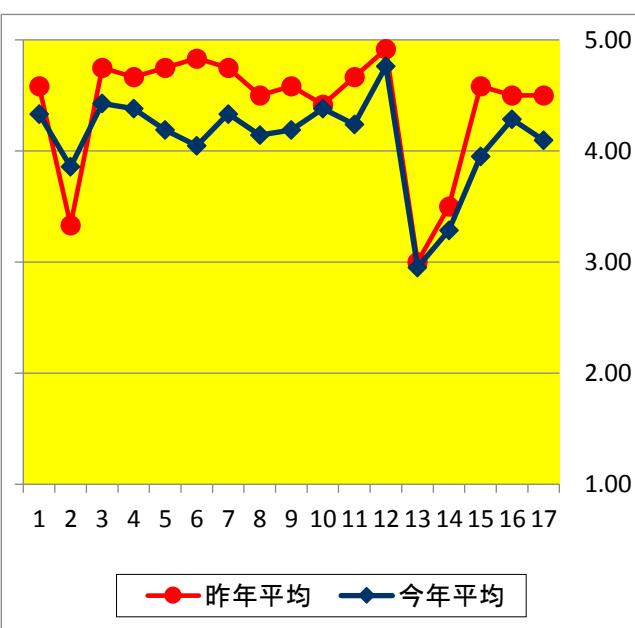
全体としては、評点に問題はないと認識している。ただし、受講生間で評点のばらつきが大きい。そのため、全体的には本年の取り組みを継続しながらも、理解の不十分な受講生に対するきめ細かい対応を進めたいと考えている。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

全体的な評点が昨年度から低下していた。そのため、説明をさらに丁寧に行うなどの、きめ細かい対応を行う必要があると考えられる。

科 目	監査制度論(B)			
配当年次	1	開講時限	秋月3	
受講者数	26	回答者数	21	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.58	4.33	4	5	2
2	3.33	3.86	4	5	2
3	4.75	4.43	5	5	3
4	4.67	4.38	5	5	1
5	4.75	4.19	5	5	1
6	4.83	4.05	4	5	2
7	4.75	4.33	4	5	2
8	4.50	4.14	4	5	3
9	4.58	4.19	4	5	3
10	4.42	4.38	5	5	3
11	4.67	4.24	4	5	3
12	4.92	4.76	5	5	2
13	3.00	2.95	2・3・5	5	1
14	3.50	3.29	5	5	1
15	4.58	3.95	4	5	2
16	4.50	4.29	4	5	3
17	4.50	4.10	4	5	3
回答者数	12	21			



受講生の傾向

基本科目(必修科目)群に属するという関係上、受講生の出席率(項目12)は昨年度より若干低下し、ほぼ90%となっており、比較的高い出席率であり勉学に対する意欲は相対的に高いように解される。

しかし、昨年度の秋学期クラスBの評価に比べると、全体的に評価が低下してしまっている。特に教員側の熱意(項目4)、説明の仕方(項目5)、教材の利用(項目6)、機材の使い方(項目7)に対するといった項目のほぼ全ての項目において、昨年実績より低下している(最頻値5→4)。また、課題予習(項目13)は去年並みであるが、復習(項目14)に対する時間は低下しており、本科目の受講に伴う学習意欲(項目15)、ならびに知識・能力(項目16)も、概ね高い値ではあるものの低下している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度は監査制度に係わる監査基準改訂がなかったため、これまでの改訂論点と監査制度に関する重要論点を講義の中で押さえるようにした。講義スライドの最後には、従来通り受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題を遂行するための参考文献を列挙した。これら配布用の資料は、関西大学LMSに授業当日中にアップロードし、オンデマンドによる録画配信授業における学生の復習に役立つように配慮した。

授業が2回終了するごとに、前2回分の理解度を確認するとともに、復習を動機付けるために記述式小テストを授業時間の最初15分程度で実施し、添削後、返却した。また添削済みの優秀答案を氏名を伏せて配布するとともに、添削上のポイントを追記し解説を行った。最終的に、小テスト実施→添削→返却(添削ポイント表・講評)を繰り返すことで、各自にエッセイの書き方(重要論点の抽出と一貫した論旨の展開)を習得できるように心懸けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

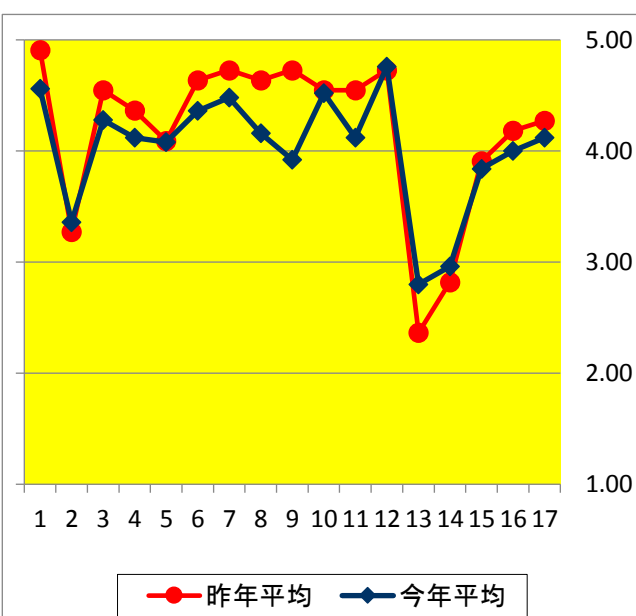
今年度は学生からの復習課題の添削依頼がなかったが、前向きに復習課題への取組みを促す仕組みを確立し、自発的な復習課題の作成と提出が行われるような措置として、優秀答案だけでなく誤りやすい点を指摘・指導する仕組みが必要かもしれない。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度クラスBの特徴は、留学生が相対的に多かったことにある。このため全体的な評価が下がったと推測される。これは、授業進度(項目2)が例年に比して「早い」という回答が多くなっている点に表われている。従って、次年度は、留学生比率に応じた授業進度の工夫が必要になると思われる。

科 目	監査基準論<監査基準>(B)			
配当年次	1	開講時限	秋水1	
受講者数	33	回答者数	25	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.91	4.56	5	5	4
2	3.27	3.36	3	5	3
3	4.55	4.28	5	5	3
4	4.36	4.12	4	5	2
5	4.09	4.08	5	5	1
6	4.64	4.36	5	5	3
7	4.73	4.48	5	5	3
8	4.64	4.16	5	5	3
9	4.73	3.92	3・4・5	5	2
10	4.55	4.52	5	5	4
11	4.55	4.12	4	5	1
12	4.73	4.76	5	5	4
13	2.36	2.80	1・3	5	1
14	2.82	2.96	2	5	1
15	3.91	3.84	4	5	1
16	4.18	4.00	4	5	1
17	4.27	4.12	4	5	1
回答者数	11	25			



受講生の傾向

授業の冒頭で実施する前回の復習を兼ねた演習に前向きに取り組み、概ね真摯に集中して受講していた。予習と復習の時間も昨年度より改善している。講師からの質問に対しても積極的に回答し、疑問点については積極的に質問していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

引き続き予習復習の自宅学習用にテーマに関連する新聞記事や監査基準委員会報告書を配布して読んでおくように指示した。復習を兼ねた演習問題では、間違いやすい論点について強調して解説を行うようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

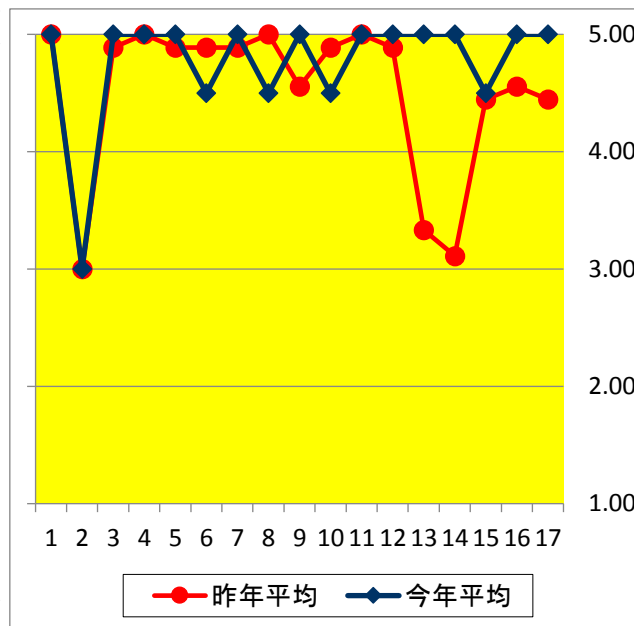
評価は引き続き試験重視にして、自宅での自己学習を促進させていくことにする。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

授業中の解説および演習問題では、間違いやすい論点について強調して説明する。自宅学習用に引き続き新聞記事や監査基準委員会報告書の最新版を配布する。評価については引き続き期末試験重視にする。

科 目	会計専門職業倫理(B)			
配当年次	2	開講時限	秋月4	
受講者数	2	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.89	5.00	5	5	5
4	5.00	5.00	5	5	5
5	4.89	5.00	5	5	5
6	4.89	4.50	4・5	5	4
7	4.89	5.00	5	5	5
8	5.00	4.50	4・5	5	4
9	4.56	5.00	5	5	5
10	4.89	4.50	4・5	5	4
11	5.00	5.00	5	5	5
12	4.89	5.00	5	5	5
13	3.33	5.00	5	5	5
14	3.11	5.00	5	5	5
15	4.44	4.50	4・5	5	4
16	4.56	5.00	5	5	5
17	4.44	5.00	5	5	5
回答者数	9	2			



受講生の傾向

春学期に受講者が集中する傾向が続き、今年度は2名の受講者しかいなかった。加えて、1名は短答式合格者、1名は留学生と学力(語学力も含む)の差が大きかった。授業に対する姿勢は留学生も含めて前向きであった。2名の理解度を確認しながら進めたので、早さとしては丁度良い(②)との結果が出たものと理解している。また課題を多く割り当てたため、予習復習に費やした時間が長いという回答となっている(質問⑬、⑭)。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

最近トピックとなっている企業不祥事や経営者の話題を織り込んだ。またその内容を留学生にも分かるように、わかりやすく説明した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

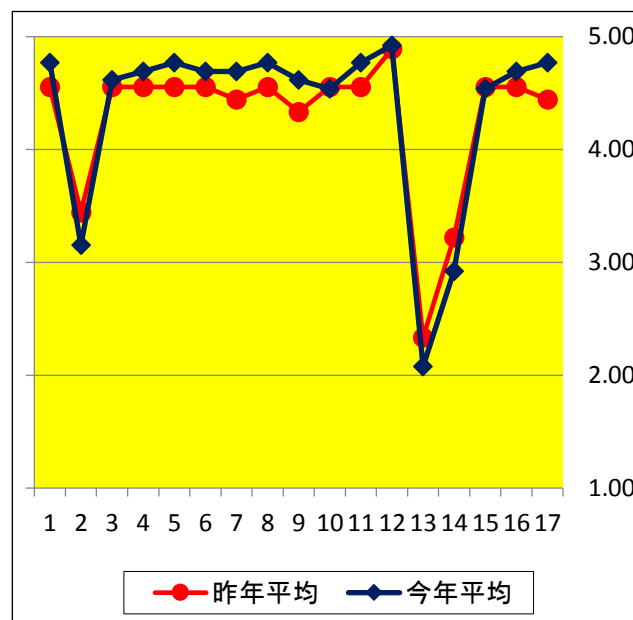
最新の企業不祥事(日産)など、引き続きトピックを多く取り入れていく。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講者が極端に少ない学期の授業の進め方には苦慮している。概ね春学期と同じレベルを保ちながら、より受講者の要望や興味に沿った内容としていきたい。

科 目	財表作成簿記論＜財表作成簿記＞			
配当年次	1	開講時限	秋金3	
受講者数	19	回答者数	13	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.56	4.77	5	5	4
2	3.44	3.15	3	4	3
3	4.56	4.62	5	5	4
4	4.56	4.69	5	5	4
5	4.56	4.77	5	5	4
6	4.56	4.69	5	5	4
7	4.44	4.69	5	5	4
8	4.56	4.77	5	5	4
9	4.33	4.62	5	5	4
10	4.56	4.54	5	5	3
11	4.56	4.77	5	5	4
12	4.89	4.92	5	5	4
13	2.33	2.08	1	5	1
14	3.22	2.92	3	5	1
15	4.56	4.54	5	5	3
16	4.56	4.69	5	5	3
17	4.44	4.77	5	5	4
回答者数	9	13			



受講生の傾向

受講生は、公認会計士試験の勉強に取り組んでいる学生や、春学期の「上級簿記論」で高得点を取得した学生など、全体的に簿記の習熟度が高い状況であった。しかし、とくに連結会計については、計算問題としてテクニカルに解くことはできるが、仕訳を中心に解くことは難しい様子であった。専門学校等では、連結会計をテクニカルに教えることが多いので、それが一因であると考えられる。しかし、向上心の高い受講生が多く、初めは抵抗感をもっていた学生も講義が進むに連れて触発され、この機会に仕訳を通じて連結会計の理解を深めようと努めていた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

複雑で細かな論点よりも、基本的で重要な論点を優先的かつ反復的に取り扱うことで、知識の定着が図られるようにした。とくに連結会計は、計算問題としてテクニカルに解くのではなく、簿記のプロセスとして仕訳を中心に理解するように指導し、そのように講義資料も工夫した。また、問題演習の時間は、質問があれば即座に個々人の習熟度に応じて個別指導するなど、全員の理解を確認して回った。アンケート結果を見る限り、受講生のニーズと概ね合致していたと考えてよい。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

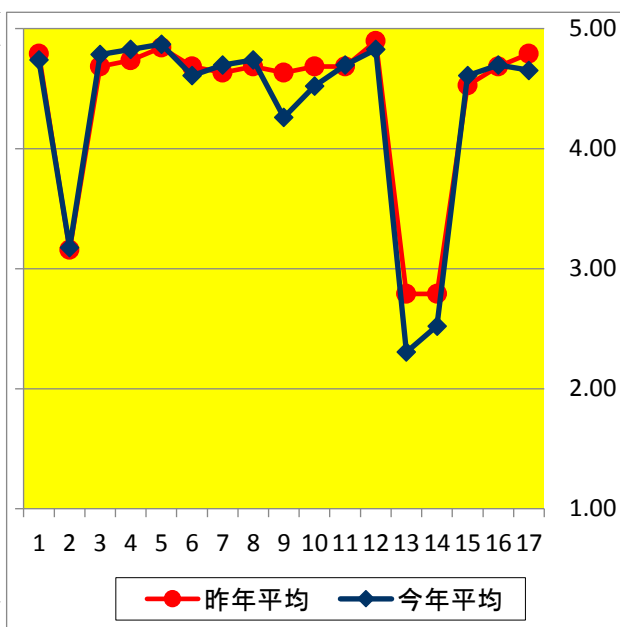
受講生の傾向にもよるが、今年度のアンケート結果は概ね高いポイントを得ており、全体的な講義展開としては良い感触を得ている。次年度も継続することにしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度のアンケート結果は概ね高いポイントを得ており、全体的な講義展開としては良い感触を得ている。次年度も継続することにしたい。

科 目	企業分析論			
配当年次	1	開講時限	秋土1	
受講者数	26	回答者数	23	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.79	4.74	5	5	3
2	3.16	3.17	3	4	3
3	4.68	4.78	5	5	4
4	4.74	4.83	5	5	4
5	4.84	4.87	5	5	4
6	4.68	4.61	5	5	2
7	4.63	4.70	5	5	3
8	4.68	4.74	5	5	3
9	4.63	4.26	4・5	5	2
10	4.68	4.52	5	5	2
11	4.68	4.70	5	5	3
12	4.89	4.83	5	5	4
13	2.79	2.30	2	5	1
14	2.79	2.52	2	5	1
15	4.53	4.61	5	5	3
16	4.68	4.70	5	5	3
17	4.79	4.65	5	5	4
回答者数	19	23			



受講生の傾向

全体として出席率は高く、全15回の出席率の平均は9割を超えている。昨年度とは異なり極端に出席率の低い受講生もなく、積極的に講義に参加する姿勢が全員に見られたことは喜ばしい。

受講対象が1年次生にも拡大し、受講の前提となる基礎的な知識が十分でない受講生が大幅に増加した昨年度の反省を踏まえ、今年度は開講を春学期から秋学期に変更した。また、シラバスに会計の基礎的な知識を習得していることが受講の前提である点を明記した。そのことも影響したと認識しているが、講義の内容に付いていけない受講生は大幅に減少した。

全体の成績も、昨年度との比較で大幅に改善する結果となった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

分析のテクニックよりも、企業の実際の姿や行動をイメージしたり、分析指標を見て自身としてどのように判断するかが重要であることを伝えることに重きを置いて講義を進めた。分析は財務指標を算出し、その傾向や推移を追いかけることが大事なのではなく、それらを受けて自らの意見を構築し、発信することが重要であることを伝えたいという思いからである。

ただ、毎回講義の最後に、昨年同様、次回の講義の内容からテーマを選んで予習をしてくるように指示を出してはいたものの、昨年度若干増加した予習時間が減少してしまったのは残念である。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

会計の基礎的な知識を身に付けていることを、受講の前提条件としてシラバスに明記した方がよいと感じた。また、可能であれば、開講時期を春学期から秋学期に変更することを検討しても良いのではないかと。いずれにせよ、せつかくの受講時間をより実りの多いものとする事ができるよう、受講の意思決定を行う段階で正しい選択をサポートする工夫が必要である。

講義内容に関しては、引き続き予習、復習を促す取り組みを模索していく必要がある。

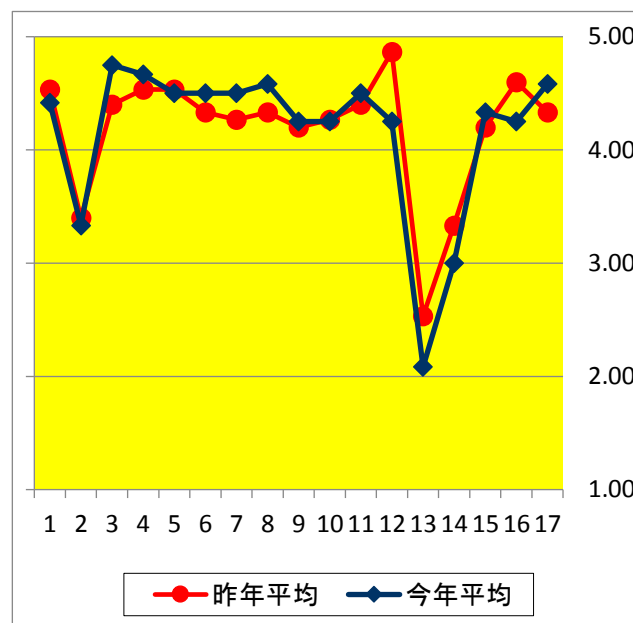
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

教室での講義だけでなく、予習、復習が一体となってより実りの大きな講義になるよう、講義の進め方について、さらなる改善に取り組むことが必要だと認識している。

毎回の講義で、より多くの受講生に発言の機会を確保する進め方は相応の手応えを感じているため、引き続き実施していきたい。グループディスカッションも取り入れてはいるものの、もっと回数を多くすることも検討したい。

科 目	監査報告論			
配当年次	1	開講時限	秋木3	
受講者数	14	回答者数	12	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.53	4.42	5	5	3
2	3.40	3.33	3	4	3
3	4.40	4.75	5	5	4
4	4.53	4.67	5	5	4
5	4.53	4.50	4・5	5	4
6	4.33	4.50	5	5	3
7	4.27	4.50	5	5	3
8	4.33	4.58	5	5	3
9	4.20	4.25	4	5	3
10	4.27	4.25	4	5	3
11	4.40	4.50	5	5	3
12	4.87	4.25	5	5	1
13	2.53	2.08	1	5	1
14	3.33	3.00	3	5	1
15	4.20	4.33	5	5	2
16	4.60	4.25	5	5	1
17	4.33	4.58	5	5	4
回答者数	15	12			



受講生の傾向

選択科目ではあるが、本科目は公認会計士試験に直結する科目であるので、受講生の出席状況(項目12)は若干低下したもののほぼ80%を確保し、高い出席率となっており、受講生のモラルも相対的に高いと看做し得る。しかし予習時間(項目13)が昨年度よりも減少し、さらに復習時間(項目14)も1時間程度と低下している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度も昨年度に続き、監査報告に関連する監査基準改訂がなされたため、該当箇所に関する講義資料を新規に作成し配布するとともに、重要論点とともに解説を加えた。またスライドの最後には、受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題を遂行するために必要となる参考文献を列举した。さらにこれら配布資料の全ては、授業当日中に関西大学LMSにアップロードし、オンデマンドによる授業録画WEB配信を前提とした復習に役立つよう配慮した。

過年度と同様、前2回分の理解度を確認するための記述式小テストを、隔週で授業時間の最初に20分程度で実施し、添削して返却すると同時に、成績優秀者の添削済み答案を氏名と学生番号を伏せた上で、コピーし全員に配布し解説を行った。返却時に論点の講評を行うことで、各自にエッセイの書き方(重要論点の抽出と一貫した論旨の展開)を習得できるよう心懸けた。これらに加えて、添削に当たって作成した論点表と解答の流れを配布した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

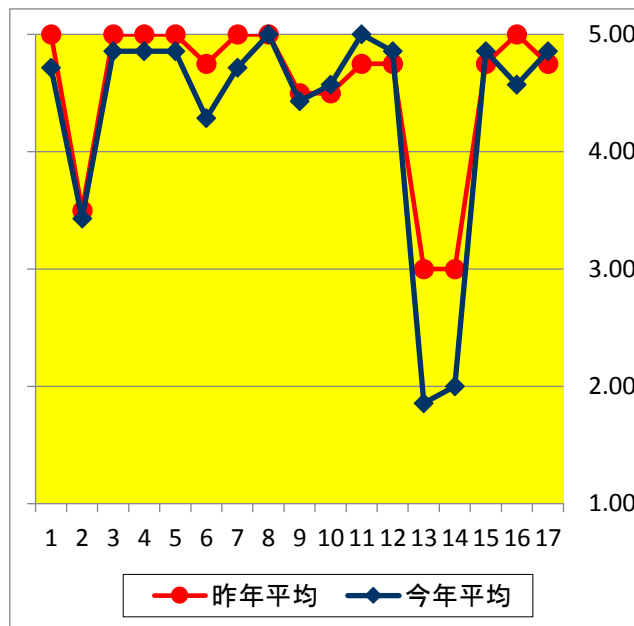
個々の受講生の小テストを添削して返却しているが、受講生自身にもっと記述の仕方を習得させるための措置として、優秀答案だけでなく、典型的な間違い答案の解説を実施することも検討したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

小テストによる予復習の動機付けに加えて、監査報告に関心を持たせるために実際の監査報告書の収集と分析を要求することで予復習に前向きに取り組ませたい。

科 目	特殊講義(コンサルティング実務)		
配当年次	1	開講時限	秋土2
受講者数	11	回答者数	7

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.71	5	5	4
2	3.50	3.43	3	5	3
3	5.00	4.86	5	5	4
4	5.00	4.86	5	5	4
5	5.00	4.86	5	5	4
6	4.75	4.29	5	5	2
7	5.00	4.71	5	5	4
8	5.00	5.00	5	5	5
9	4.50	4.43	5	5	3
10	4.50	4.57	5	5	4
11	4.75	5.00	5	5	5
12	4.75	4.86	5	5	4
13	3.00	1.86	1	3	1
14	3.00	2.00	2	3	1
15	4.75	4.86	5	5	4
16	5.00	4.57	5	5	3
17	4.75	4.86	5	5	4
回答者数	4	7			



受講生の傾向

コンサルタントを将来の選択肢の1つとして考えている受講生が多かった。ただ、どのようなコンサルティングを行うか明確に目標を持っている受講生は少なく、まずは、コンサルティングとは何かを知りたい、見極めたいという雰囲気を感じた。受講生の中から、将来コンサルティングの世界で活躍してくれる受講生が一人でも多く誕生することを期待している。

なお、出席率は平均で84%程度であったが、出席率の高い受講生と出席率のやや低い受講生に明確に分かれた印象である(割合は半々)。土曜日に開講しているため、補修所との兼ね合いで、公認会計士論文式試験に合格した受講生が年明け以降欠席する状況は、今後も続くと思われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

より実践的な内容に近付けるべく、実務における具体的な情報を数多く盛り込んで講義を進めた。これまでの経験や関与中のプロジェクトの内容を前提に、可能な限り生の情報を提供するように心掛けた。また、コンサルティングのスキルは様々なビジネスシーンで活用できることから、活用できる場面を具体的に想定して伝えることも心掛けた点である。さらに、PC教室の環境を活かして、ビジネスソフトウェアを利用した作業やプレゼンテーションをイメージできる演習に取り組んでもらうことで、PCの操作に慣れてもらったり、アウトプットにつながるプロセスを意識できるようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

引き続き、より実践的な内容にするという基本姿勢は堅持したい。

その上で、プレゼンテーションや企画書の作成等、情報のインプットではなくアウトプットの質を高めることを目標に取り組みたいと考える。とかく知識の習得に偏りがちな受講生の勉強に対する意識を、社会で早く活躍できる人材になることを目指して、少しでも変えることであれば狙い通りである。そのような講義を目指したい。

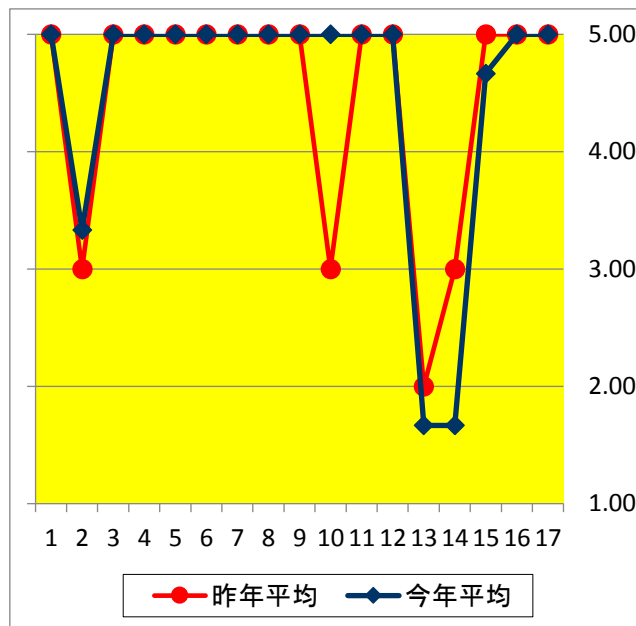
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度と同様に、より実践的な内容にするという基本姿勢は堅持したい。また、今年度取り組んだアウトプットを意識した講義の内容もさらにブラッシュアップしていきたい。

ただ、伝えたいことが数多くある一方で講義の時間は限られているため、どの内容を重点的に取り上げるかについては、その時々状況に応じて検討していく必要がある。

科 目	特殊講義(公会計)＜公会計論＞			
配当年次	1	開講時限	秋火4	
受講者数	3	回答者数	3	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	5.00	5	5	5
2	3.00	3.33	3	4	3
3	5.00	5.00	5	5	5
4	5.00	5.00	5	5	5
5	5.00	5.00	5	5	5
6	5.00	5.00	5	5	5
7	5.00	5.00	5	5	5
8	5.00	5.00	5	5	5
9	5.00	5.00	5	5	5
10	3.00	5.00	5	5	5
11	5.00	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	2.00	1.67	2	2	1
14	3.00	1.67	2	2	1
15	5.00	4.67	5	5	4
16	5.00	5.00	5	5	5
17	5.00	5.00	5	5	5
回答者数	1	3			



受講生の傾向

受講生は3名と今年も少ないが、全員熱心に講義を聞き、与えられた課題には適切に対応していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

一通りの説明を終えた後、各自に、具体的な自治体を決めてもらい、自治体の財政の状況をレポートしてもらった。京都市、箕面市、枚方市、奈良市が取り上げられた。実際に、各市の財務諸表や決算統計を読むことにより、理解が深まったようである。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

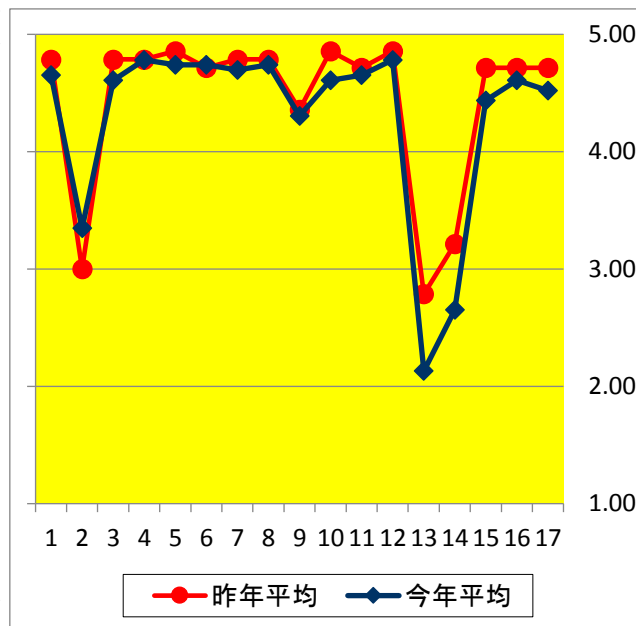
毎年、人数が少ないので、履修者の希望をも考慮して、講義内容やレポートの内容を柔軟に変えて対応する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

毎年、人数が少ないので、履修者の希望をも考慮して、講義内容やレポートの内容を柔軟に変えて対応する。私が講義する内容は最新の状況を織り込んで改訂していくが、講義中に1度か2度は受講生の関心あるテーマで報告してもらうことにする。

科 目	特殊講義(会計学の理論と実践)			
配当年次	1	開講時限	秋水2	
受講者数	27	回答者数	23	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.79	4.65	5	5	4
2	3.00	3.35	3	5	3
3	4.79	4.61	5	5	3
4	4.79	4.78	5	5	4
5	4.86	4.74	5	5	4
6	4.71	4.74	5	5	4
7	4.79	4.70	5	5	4
8	4.79	4.74	5	5	4
9	4.36	4.30	5	5	3
10	4.86	4.61	5	5	4
11	4.71	4.65	5	5	3
12	4.86	4.78	5	5	3
13	2.79	2.13	1	5	1
14	3.21	2.65	1・2	5	1
15	4.71	4.43	5	5	3
16	4.71	4.61	5	5	3
17	4.71	4.52	5	5	3
回答者数	14	23			



受講生の傾向

会計士を志望する学生が多く、学力は高かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生の学力が高かったことをふまえ、より専門的な内容も取り扱った。(組織再編行為など)

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

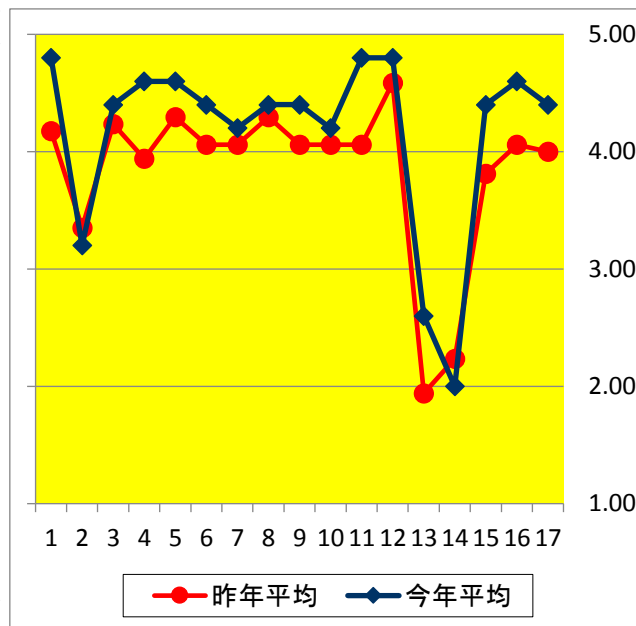
履修生のレベルに応じて、取り扱う内容を検討したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

さらに満足度を高める講義にしたい。

科 目	特殊講義(労務と会計)			
配当年次	1	開講時限	秋前金6～7	
受講者数	8	回答者数	5	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.18	4.80	5	5	4
2	3.35	3.20	3	4	3
3	4.24	4.40	4	5	4
4	3.94	4.60	5	5	4
5	4.29	4.60	5	5	4
6	4.06	4.40	4	5	4
7	4.06	4.20	4	5	4
8	4.29	4.40	4	5	4
9	4.06	4.40	5	5	3
10	4.06	4.20	4・5	5	3
11	4.06	4.80	5	5	4
12	4.59	4.80	5	5	4
13	1.94	2.60	1・3	5	1
14	2.24	2.00	1・3	3	1
15	3.81	4.40	5	5	3
16	4.06	4.60	5	5	3
17	4.00	4.40	5	5	3
回答者数	17	5			



受講生の傾向

本講義は、梅田キャンパスで開講される、実務家教員によるリレー形式の講義科目である。受講生は、会計専門職大学院生に加えて社会人の聴講生により構成されていた。全体として受講生は真面目に授業に出席して、熱心に討議に参加していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
該当なし(担任者変更)

今後の対応

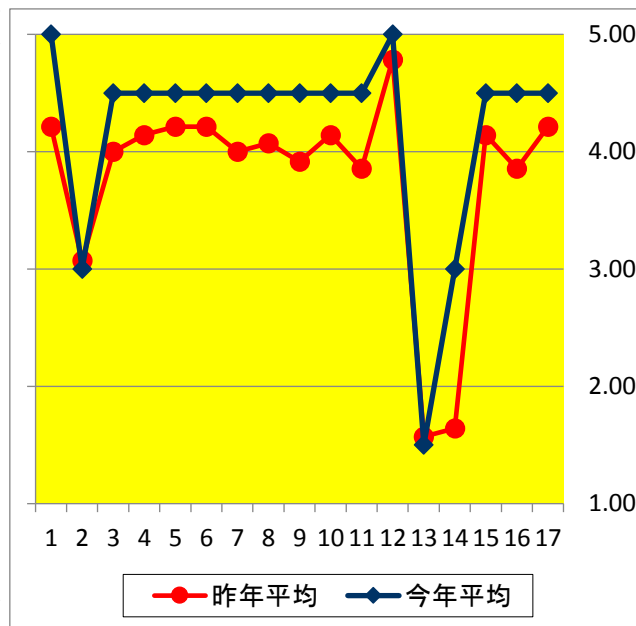
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
該当なし(担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

全体として、良好な評価であったと考えられる。そのため、次年度も本年度と同様の取り組みを継続する必要があると考えている。

科 目	特殊講義(税務と会計)		
配当年次	1	開講時限	秋前月6～7
受講者数	19	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.21	5.00	5	5	5
2	3.07	3.00	3	3	3
3	4.00	4.50	4・5	5	4
4	4.14	4.50	4・5	5	4
5	4.21	4.50	4・5	5	4
6	4.21	4.50	4・5	5	4
7	4.00	4.50	4・5	5	4
8	4.07	4.50	4・5	5	4
9	3.92	4.50	4・5	5	4
10	4.14	4.50	4・5	5	4
11	3.86	4.50	4・5	5	4
12	4.79	5.00	5	5	5
13	1.57	1.50	1・2	2	1
14	1.64	3.00	1・5	5	1
15	4.14	4.50	4・5	5	4
16	3.86	4.50	4・5	5	4
17	4.21	4.50	4・5	5	4
回答者数	14	2			



受講生の傾向

本講義は、梅田キャンパスで開講される科目である。受講生は、会計専門職大学院生に加えて、社会人の聴講生により構成されている。受講者は全体として、真面目に講義に出席して、熱心に討議に参加していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
該当なし(担任者変更)

今後の対応

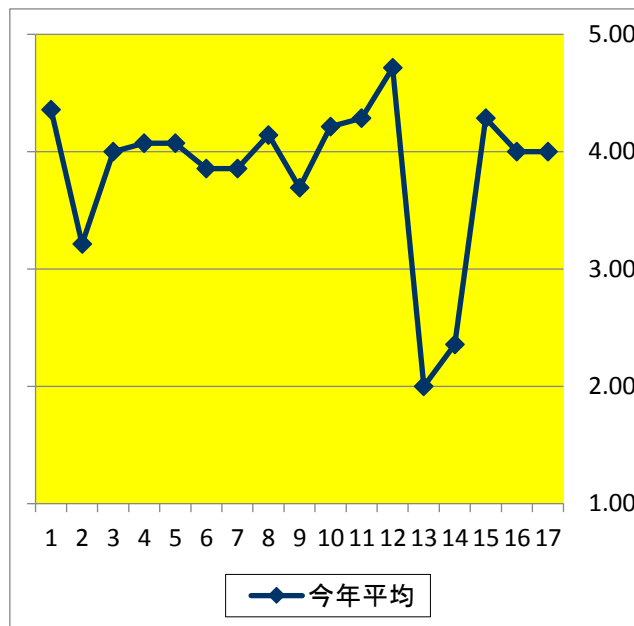
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
該当なし(担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

全体的な項目にわたって、高い評価を獲得することができた。そのため、今年度の講義方法を今後も継続することが重要であると考えらえる。

科 目	特殊講義(病院経営の勘どころ・日本経営グループ寄付講座)		
配当年次	1	開講時限	秋後月6～7
受講者数	23	回答者数	14

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.36	4	5	3
2	—	3.21	3	4	2
3	—	4.00	4	5	3
4	—	4.07	4	5	3
5	—	4.07	4	5	3
6	—	3.86	4	5	2
7	—	3.86	4	5	2
8	—	4.14	4	5	3
9	—	3.69	3	5	2
10	—	4.21	4	5	3
11	—	4.29	4	5	3
12	—	4.71	5	5	4
13	—	2.00	1	4	1
14	—	2.36	2	5	1
15	—	4.29	4	5	3
16	—	4.00	4	5	3
17	—	4.00	4	5	3
回答者数	—	14			



受講生の傾向

受講生の参加率(項目12)がほぼ80%となっており、講義には真面目に出席していたと解される。その場で随時与えられる課題に対するグループワークが多いため、予復習時間(項目13と14)が低くなるのはやむを得ない。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度が初めての開講となるが、講師による受講生に対するモラル向上のための質疑応答時間の確保や、講義後半に実施されるグループワークの設定などによって、受講生の満足度(項目11)は比較的高くなっている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

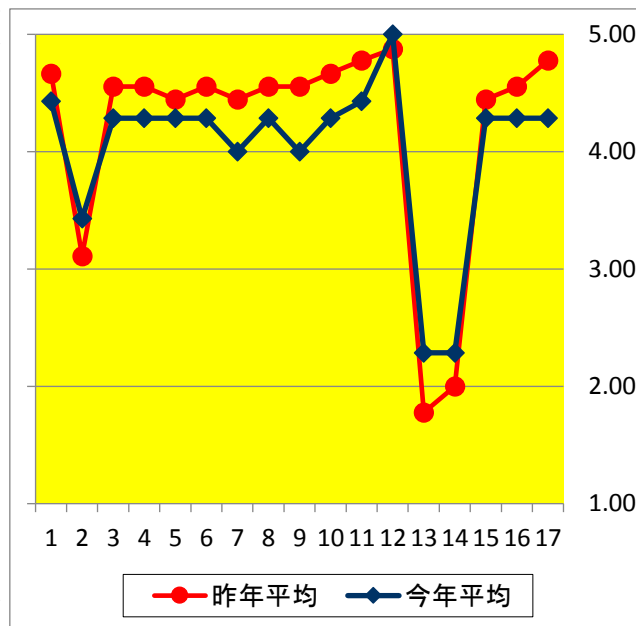
該当なし(今年度新設科目)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

本科目の特徴は、社会人受講生と会計研究科院生とのグループワークによる相互研鑽にあるため、できる限り効果的なケース提供とそれに基づくグループワークによって理論と実践の融合を可能としたい。

科 目	コストマネジメント論			
配当年次	2	開講時限	秋月3	
受講者数	8	回答者数	7	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	4.43	4	5	4
2	3.11	3.43	3	4	3
3	4.56	4.29	4	5	4
4	4.56	4.29	4	5	4
5	4.44	4.29	4	5	4
6	4.56	4.29	4	5	4
7	4.44	4.00	4	5	3
8	4.56	4.29	4・5	5	3
9	4.56	4.00	4	5	3
10	4.67	4.29	4・5	5	3
11	4.78	4.43	4	5	4
12	4.88	5.00	5	5	5
13	1.78	2.29	2	4	1
14	2.00	2.29	2	4	1
15	4.44	4.29	4	5	4
16	4.56	4.29	4	5	4
17	4.78	4.29	4	5	4
回答者数	9	7			



受講生の傾向

本講義は、コストマネジメントに関する講義形式の科目である。受講生は、全体として真面目に出席していた。ただし、受講生間の知識のばらつきが見受けられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の評価が良好であったため、今回の講義においても昨年度と同様の講義方法を継続するように留意した。また、学習に対する意識付けを行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

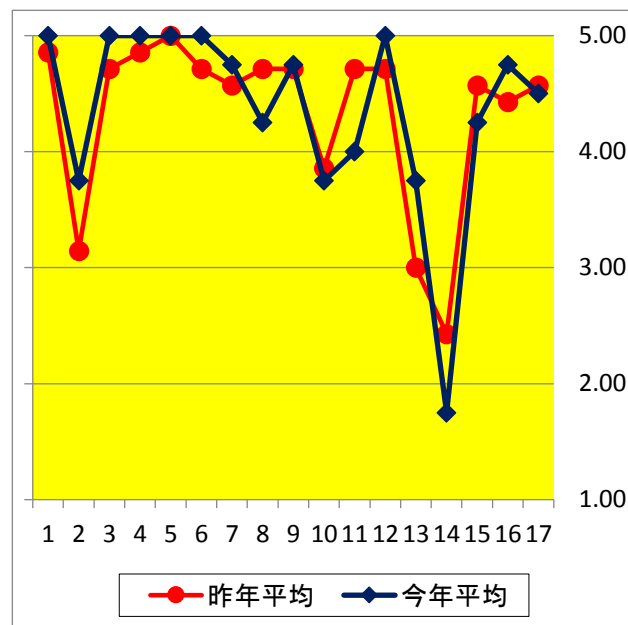
全体としての評点には大きな問題はないと思われる。学習に対する意識付けを行う点は必要であるが、全体としては本年度の取り組みを継続するつもりである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

該当なし(担任者変更)

科 目	租税法理論			
配当年次	2	開講時限	秋木3	
受講者数	4	回答者数	4	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.86	5.00	5	5	5
2	3.14	3.75	3	5	3
3	4.71	5.00	5	5	5
4	4.86	5.00	5	5	5
5	5.00	5.00	5	5	5
6	4.71	5.00	5	5	5
7	4.57	4.75	5	5	4
8	4.71	4.25	5	5	3
9	4.71	4.75	5	5	4
10	3.86	3.75	5	5	1
11	4.71	4.00	4	5	3
12	4.71	5.00	5	5	5
13	3.00	3.75	5	5	2
14	2.43	1.75	1	3	1
15	4.57	4.25	5	5	3
16	4.43	4.75	5	5	4
17	4.57	4.50	5	5	3
回答者数	7	4			



受講生の傾向

受講生4名の内訳は、会計士志望2名と税理士志望2名であった。質問No.13及び14の結果から、受講生は前年度よりも予習の方に時間をかけて、授業に臨んでいることが確認できた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

まず、受講生に租税判例における取引図を記載させて争点の把握を促した。次に、判旨の論理構成をホワイトボードに示しつつ、質疑応答を通じて租税判例における文理解釈、目的論的解釈の内容を説明した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

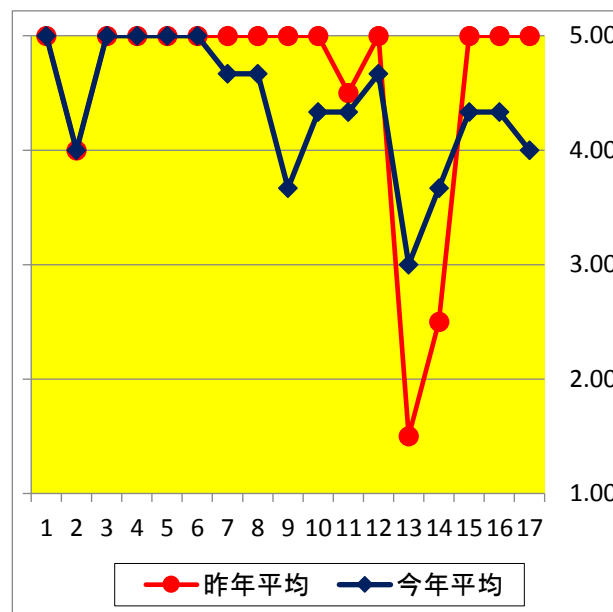
本年度も租税判例を苦手とする受講生が多かった。この点を改善するため、専門用語の補足説明に加え、判旨の論理構成を図示し、受講生の理解を促すようにしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

租税法規の当てはめ(法の適用)を苦手とする受講生が多かった。この点を改善するため、まずは法の適用の三段論法を解説し、次に、争点及び判示の論理構成を図で示すことによって、受講生の租税判例に関する理解向上を目指したい。

科 目	租税法会計論			
配当年次	2	開講時限	秋火4	
受講者数	3	回答者数	3	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	5.00	5	5	5
2	4.00	4.00	3・4・5	5	3
3	5.00	5.00	5	5	5
4	5.00	5.00	5	5	5
5	5.00	5.00	5	5	5
6	5.00	5.00	5	5	5
7	5.00	4.67	5	5	4
8	5.00	4.67	5	5	4
9	5.00	3.67	3	5	3
10	5.00	4.33	5	5	3
11	4.50	4.33	5	5	3
12	5.00	4.67	5	5	4
13	1.50	3.00	1・3・5	5	1
14	2.50	3.67	3	5	3
15	5.00	4.33	4	5	4
16	5.00	4.33	4	5	4
17	5.00	4.00	3・4・5	5	3
回答者数	2	3			



受講生の傾向

受講生3名の内訳は、会計士志望2名、税理士志望1名であった。また、所得税法及び消費税法の既修者は2名で、1名は初学者であった。質問No.13及び14の通り、前年度よりも予習と復習に要した時間は増えていた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

公認会計士試験の過去問をレジュメや確認問題に多用した。なお、既習者はその方法に対応できたが、1名の初学者は上手く対応できなかった。そこで、まずは各講義で取り扱う過去問のうち、最初の1題だけ講義にて解答プロセスを共有し、残りを宿題とする方法を採用した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

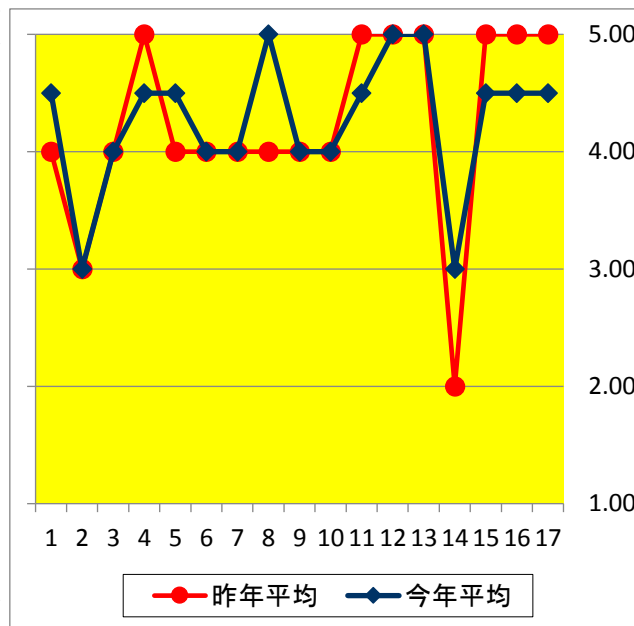
今年度に引き続き、本科目では所得税法と消費税法を取り扱うことにする。また、講義の最初に前回の確認問題を解かせるが、その内容を公認会計士試験の過去問を出来る限り多く含めるようにし、受講生のレベル向上を目指したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

カリキュラムの関係から、本科目では所得税法と消費税法に関する税務会計を次年度も取り扱う。気をつけるべき点は本年度と同様、税務会計の初学者への対応である。公認会計士試験の過去問を題材に解答プロセスを共有し、初学者の理解向上を目指したい。

科 目	コーポレート・ファイナンス論			
配当年次	2	開講時限	秋火5	
受講者数	2	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.50	4・5	5	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.00	4.00	3・5	5	3
4	5.00	4.50	4・5	5	4
5	4.00	4.50	4・5	5	4
6	4.00	4.00	3・5	5	3
7	4.00	4.00	3・5	5	3
8	4.00	5.00	5	5	5
9	4.00	4.00	3・5	5	3
10	4.00	4.00	3・5	5	3
11	5.00	4.50	4・5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	5.00	5.00	5	5	5
14	2.00	3.00	1・5	5	1
15	5.00	4.50	4・5	5	4
16	5.00	4.50	4・5	5	4
17	5.00	4.50	4・5	5	4
回答者数	1	2			



受講生の傾向

受講者のレベルが高く、かつ、学ぼうとする姿勢があり、教科書を超えた内容にもついてきてくれた。ただし、公認会計士試験第2次試験に合格した受講者がおり、就職活動や監査法人の研修のため、何回か休まざるを得なかったが、最後まで授業に参加した。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

前年同様、例を交えながら、教科書を超えた内容についても授業した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

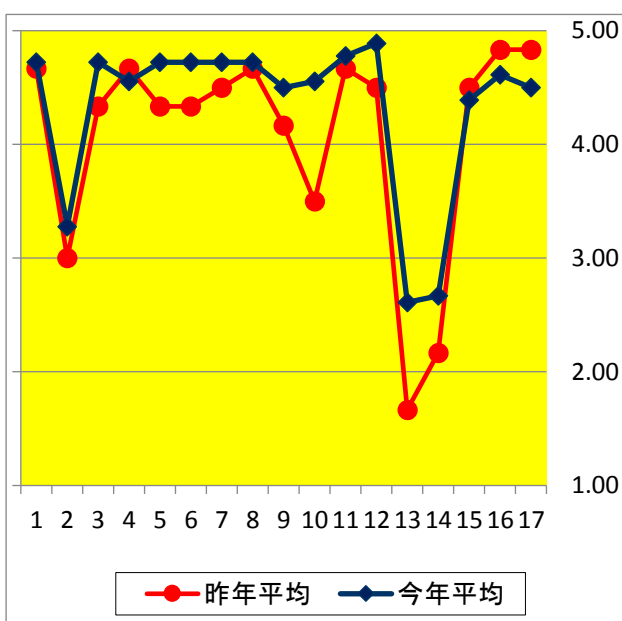
今回は、受講者が1名という状況で、かつ、学ぼうとする姿勢があったため、例を交えながらどんどん授業を進めることができた。複数の受講者でもほぼ同様の授業を行っていきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今回は、受講者が2名で、両名とも学ぼうとする姿勢があり、例を交えながらどんどん授業を進めることができた。受講者が増加しても減少しても、同様の授業を行っていきたい。

科 目	監査事例研究			
配当年次	1	開講時限	秋水2	
受講者数	19	回答者数	18	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	4.72	5	5	4
2	3.00	3.28	3	5	3
3	4.33	4.72	5	5	4
4	4.67	4.56	5	5	3
5	4.33	4.72	5	5	3
6	4.33	4.72	5	5	3
7	4.50	4.72	5	5	4
8	4.67	4.72	5	5	3
9	4.17	4.50	5	5	3
10	3.50	4.56	5	5	3
11	4.67	4.78	5	5	4
12	4.50	4.89	5	5	4
13	1.67	2.61	3	4	1
14	2.17	2.67	2	4	2
15	4.50	4.39	5	5	3
16	4.83	4.61	5	5	4
17	4.83	4.50	5	5	3
回答者数	6	18			



受講生の傾向

昨年に比べて受講生の人数が増えて適正規模になったため、ディスカッションに幅や深みが増した。ただ昨年は留学生がいなかったが、今年は相当数いたので学力差があったため、何度かグループ替えを実施した。全員真摯に課題に取り組み、ディスカッションも活発で発表も全員がまんべんなく行った。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度は総じて昨年度より評点は良かった。予習と復習をしてもらうために課題について次回までにまとめるように指示をした。グループ分けについては、グループでのディスカッションの状況を判断して、2度グループ替えを行い各グループの能力が均質になるよう配慮した。また、個人の能力を見るため最終回は個人発表とした。

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

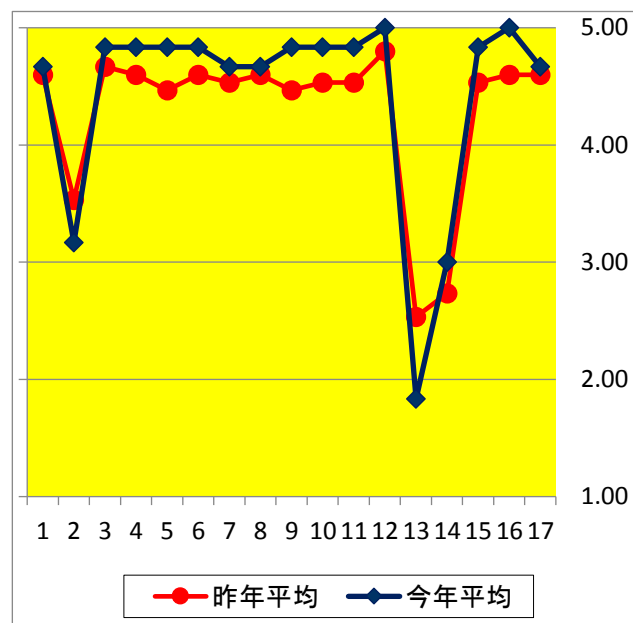
グループでのディスカッションにすると個々の受講生の実力が見えにくくなることもあるので、全員に発表と書記と司会の役割を分担してもらうとともに、個人での分析発表の機会を増やすことを検討する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

引き続きグループワークで課題に取り組み、ディスカッションと発表を実施する。さらに予習と復習が必要となるような課題を与える。また、個人の発表の割合についても検討する。

科 目	基本監査プログラム演習			
配当年次	1	開講時限	秋月2	
受講者数	7	回答者数	6	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.60	4.67	5	5	4
2	3.53	3.17	3	4	3
3	4.67	4.83	5	5	4
4	4.60	4.83	5	5	4
5	4.47	4.83	5	5	4
6	4.60	4.83	5	5	4
7	4.53	4.67	5	5	3
8	4.60	4.67	5	5	4
9	4.47	4.83	5	5	4
10	4.53	4.83	5	5	4
11	4.53	4.83	5	5	4
12	4.80	5.00	5	5	5
13	2.53	1.83	1	5	1
14	2.73	3.00	3	5	1
15	4.53	4.83	5	5	4
16	4.60	5.00	5	5	5
17	4.60	4.67	5	5	4
回答者数	15	6			



受講生の傾向

今年度も授業参加度あるいは熱心度を測る出席率(項目12)においてほぼ100%を達成しており、昨年度に引き続き非常に熱心な受講生の傾向が見受けられる。しかし予習時間(項目13)が昨年度より若干低下し、復習時間(項目14)は若干増加していることから、受講生による復習が若干ではあるが改善した傾向が見出せる。

さらに本講義を受講することによって、昨年度と同様に学習意欲の向上(項目15)や知識・能力の向上(項目16)が極めて高く現われているとともに、ほぼ全ての項目で高い評価が出ており今年度の受講生の質の高さを見出せる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度も監査実施に関する監査基準改訂はなかったため、テキストをベースにこれまでの監査基準及び監査実務指針を纏め直したパワーポイントによるスライドと、必要に応じて監査基準や実務指針、意見書等を配布し、監査実施に関する重要論点を確実に講義の前半で押さえるようにした。

前半で行った監査実施プロセスに関するテキストと配布資料に基づいた授業を前提に、後半に監査プログラムを用いたコンピュータ監査を実体験させた。その結果を2度の課題(掛け売上取引に関するフローチャート作成と当該取引に係る内部統制の運用評価)に纏めさせ、それらに加えて講義時における積極的質問や発言に基づき、それらを成績に反映するようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

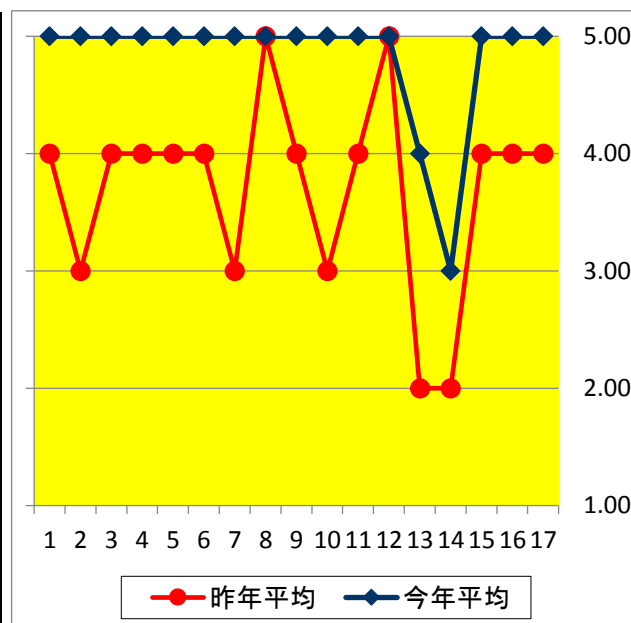
講義途中における質問提起によって学生の能動的参加を促すだけでなく、課題作成中に机間巡回を行うことで指導を行う必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度の反省に基づき課題作成中に机間巡回を行うことで発言を促したが、質疑応答に当たっても机間巡回を取り入れることで、緊張感を与えつつ発言を促したい。

科 目	アカデミック・ソリューション ＜ソリューション・イン・アカデミック＞（大西クラス）			
配当年次	1	開講時限	秋月5	
受講者数	2	回答者数	1	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	5.00	5	5	5
2	3.00	5.00	5	5	5
3	4.00	5.00	5	5	5
4	4.00	5.00	5	5	5
5	4.00	5.00	5	5	5
6	4.00	5.00	5	5	5
7	3.00	5.00	5	5	5
8	5.00	5.00	5	5	5
9	4.00	5.00	5	5	5
10	3.00	5.00	5	5	5
11	4.00	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	2.00	4.00	4	4	4
14	2.00	3.00	3	3	3
15	4.00	5.00	5	5	5
16	4.00	5.00	5	5	5
17	4.00	5.00	5	5	5
回答者数	1	1			



受講生の傾向

本講義は、管理会計に関する少人数の演習科目である。受講生は、全体として真面目に出席して学習していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の評点が比較的良好であったため、その結果をもとに、今回の講義においても受講生の管理会計に関する疑問に丁寧に対応するよう留意した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

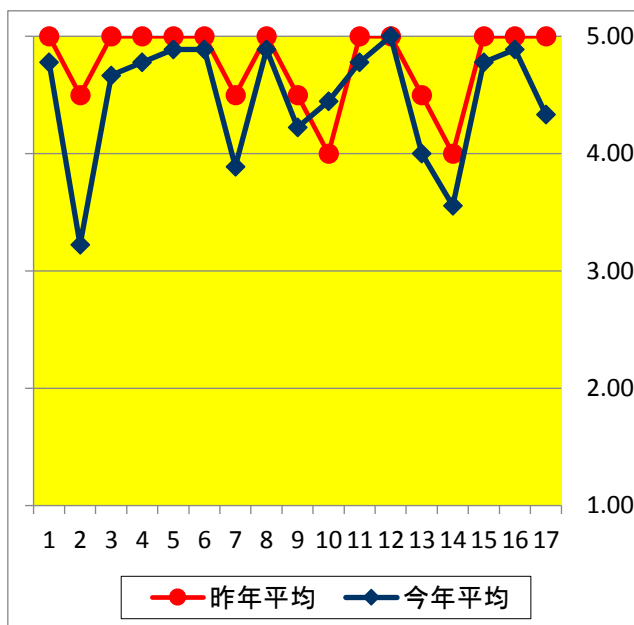
評点は比較的良好であると認識している。そのため、これからも同様の取り組みを継続するつもりである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

該当なし(2020年度不開講)

科 目	アカデミック・ソリューション ＜ソリューション・イン・アカデミック＞（中村クラス）			
配当年次	1	開講時限	秋月5	
受講者数	11	回答者数	9	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.78	5	5	4
2	4.50	3.22	3	5	3
3	5.00	4.67	5	5	3
4	5.00	4.78	5	5	4
5	5.00	4.89	5	5	4
6	5.00	4.89	5	5	4
7	4.50	3.89	4	5	3
8	5.00	4.89	5	5	4
9	4.50	4.22	5	5	3
10	4.00	4.44	4	5	4
11	5.00	4.78	5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	4.50	4.00	5	5	2
14	4.00	3.56	2・5	5	2
15	5.00	4.78	5	5	4
16	5.00	4.89	5	5	4
17	5.00	4.33	4・5	5	3
回答者数	2	9			



受講生の傾向

11名の受講生は、全て税理士志望者であった。本年度は受講者数が過去最多となり、その点が少人数教育を特徴とする本科目の性質上、気になっていたが、質問No.10の結果の通り、受講者数の多さはむしろ、プラスの効果があったようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

まず、昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」におけるデモンストレーションと私見の作り方を指導した。次に、質疑応答の活発化を促すため、グループによる質疑応答形式を採用した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

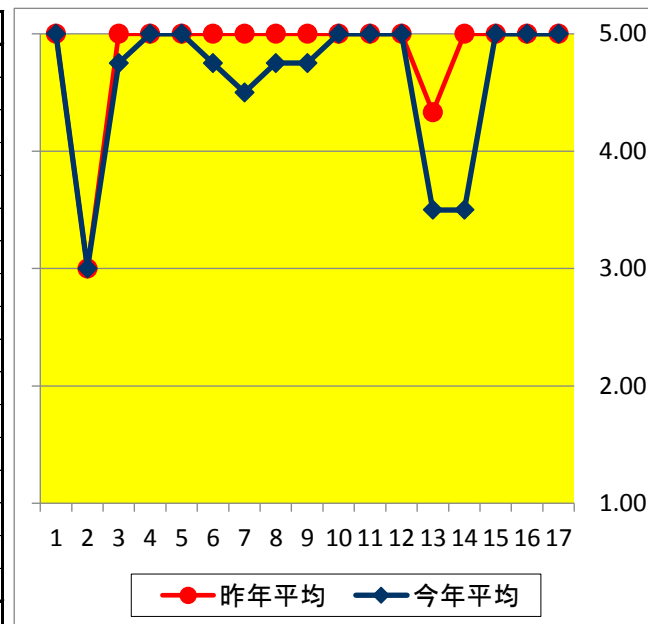
受講生の報告では、評釈者の意見が十分にくみ取れず、単なる感想文となる私見が多かった。原因としては、判旨の論理構成だけでなく、評釈者の意見の理解不足と考えられる。今後の対応としては、その点を繰り返し受講生に指導を行うことが大切と考える。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

本年度で初めて採用したグループによる質疑応答形式は、受講生の理解向上に貢献したと思われる。受講生が他の受講生の私見の作り方に関して、質問を行うようになっていったからである。以上から、報告のデモンストレーション及び私見の作り方を指導することも含め、本年度の方法を次年度も採用し、当該質疑応答形式の時間をより一層拡充したい。

科 目	アカデミック・ソリューション ＜ソリューション・イン・アカデミック＞（松本クラス）			
配当年次	1	開講時限	秋月5	
受講者数	4	回答者数	4	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	5.00	4.75	5	5	4
4	5.00	5.00	5	5	5
5	5.00	5.00	5	5	5
6	5.00	4.75	5	5	4
7	5.00	4.50	5	5	3
8	5.00	4.75	5	5	4
9	5.00	4.75	5	5	4
10	5.00	5.00	5	5	5
11	5.00	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	4.33	3.50	2・3・4・5	5	2
14	5.00	3.50	2・3・4・5	5	2
15	5.00	5.00	5	5	5
16	5.00	5.00	5	5	5
17	5.00	5.00	5	5	5
回答者数	3	4			



受講生の傾向

受講生の授業参加度あるいは熱心度を測る出席率（項目12）においては、ほぼ90%以上を達成しているが、演習のための予習時間（項目13）と復習（項目14）時間が1時間以上に低下している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

演習開始時に演習生からの希望を聴取した上で、監査論に関する諸論点を自主的に解答させ、演習時間中に全員で検討すると同時に講師の方から解説を加えた。複数の課題を事前に配布して予習を促し（項目13）と復習時間（項目14）も確保するように努めた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

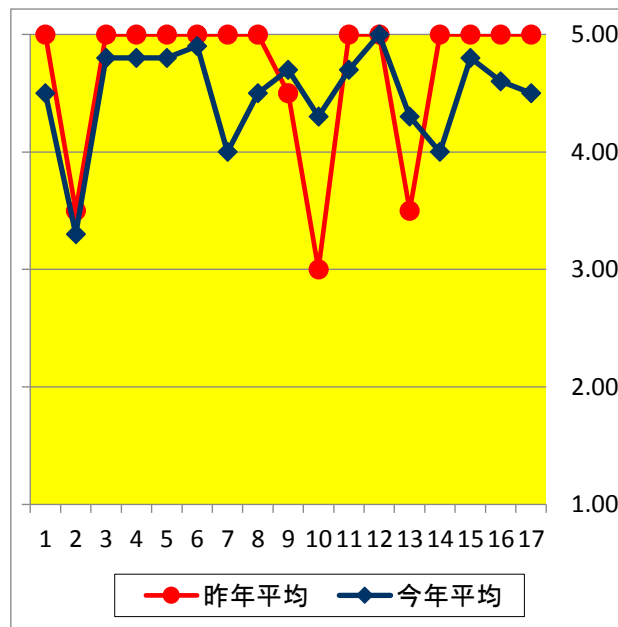
SNSを用いた教員と受講生間、受講生同士のコミュニケーションを演習時間外で確保できるようにしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

SNSを用いた情報共有は可能となったが、課題を適時に提供できるように工夫したい。

科 目	論文指導(基礎) ＜論文指導・修士論文(基礎)＞(中村クラス)		
配当年次	1	開講時限	秋火5
受講者数	12	回答者数	10

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.50	5	5	3
2	3.50	3.30	3	5	3
3	5.00	4.80	5	5	4
4	5.00	4.80	5	5	4
5	5.00	4.80	5	5	4
6	5.00	4.90	5	5	4
7	5.00	4.00	4	5	3
8	5.00	4.50	5	5	3
9	4.50	4.70	5	5	4
10	3.00	4.30	4	5	3
11	5.00	4.70	5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	3.50	4.30	5	5	1
14	5.00	4.00	5	5	2
15	5.00	4.80	5	5	4
16	5.00	4.60	5	5	4
17	5.00	4.50	4・5	5	4
回答者数	2	10			



受講生の傾向

受講生12名は、全て税理士志望者であった。アカデミック・ソリューションと同様、受講生の多さが本科目の性質上、気になったが、質問No.10の結果の通り、受講者数の多さがむしろプラスの効果となったようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の授業評価アンケートに記載した「今後の対応」に従って、受講生に各自関心のある分野における先行研究者の論文を報告させたが、本年度に新たに発生した課題は受講者数の多さへの対応であった。まず、受講生に複数回の報告の機会を与えるべく、各回の報告者及び報告時間を事前決定した。次に、受講生には報告レジュメを必ず作成させた。これは、授業内での議論の内容を明確化させることで、報告時間の短縮を図るためである。また、論文指導(実践)での論文執筆に備えるため、WestlawとLexisの両データベース講習会を先方の協力を得て授業内で実施した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

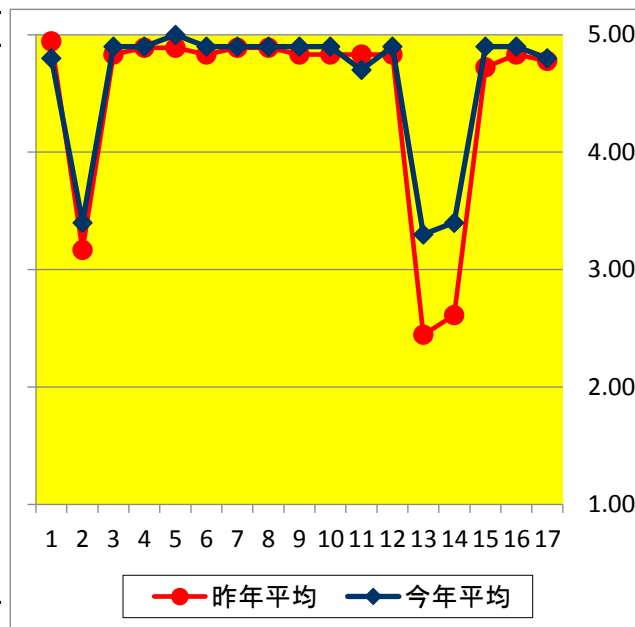
先行研究者の論文をきちんと理解できるまで繰り返し報告させるようにする。難解な先行研究論文の場合、1回の報告では十分に先行研究者の意見をくみ取ることが困難だったためである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

次年度も受講者数の多さが予想されている。このため、受講生に複数回の報告の機会を与えられるよう、スケジュールの事前決定を行いたい。また、受講生が論文執筆時に英米法のデータベースを有効活用できるようにするため、データベース講習会を実施したい。

科 目	実践会計プログラム演習			
配当年次	2	開講時限	秋水3	
受講者数	12	回答者数	10	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.94	4.80	5	5	4
2	3.17	3.40	3	5	3
3	4.83	4.90	5	5	4
4	4.89	4.90	5	5	4
5	4.89	5.00	5	5	5
6	4.83	4.90	5	5	4
7	4.89	4.90	5	5	4
8	4.89	4.90	5	5	4
9	4.83	4.90	5	5	4
10	4.83	4.90	5	5	4
11	4.83	4.70	5	5	4
12	4.83	4.90	5	5	4
13	2.44	3.30	3・5	5	1
14	2.61	3.40	2・3・5	5	2
15	4.72	4.90	5	5	4
16	4.83	4.90	5	5	4
17	4.78	4.80	5	5	4
回答者数	18	10			



受講生の傾向

受講生12名、内訳は公認会計士試験合格者2名、短答合格者1名、公認会計士志望者4名、留学生5名、留学生は企業人の志望者が多数であった。

講義内容に関する知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力について、既学習内容、エクセル等のPCスキルに幅があり、受講生間で講義中の進度に差があること、留学生の一部については語学力が壁となって講義、課題演習の取り組みとともに一部苦労している印象を受けた。出席率については一部の受講生を除いて概ね高く、講義への関心の高さが見て取れた。

講義中の主体的な態度については、前向きに発言するよう取り組んでいる者が多かったが、上記既学習内容、エクセルスキル、語学力などから一部受け身の姿勢の者もいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

該当なし(担任者変更)

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

該当なし(担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

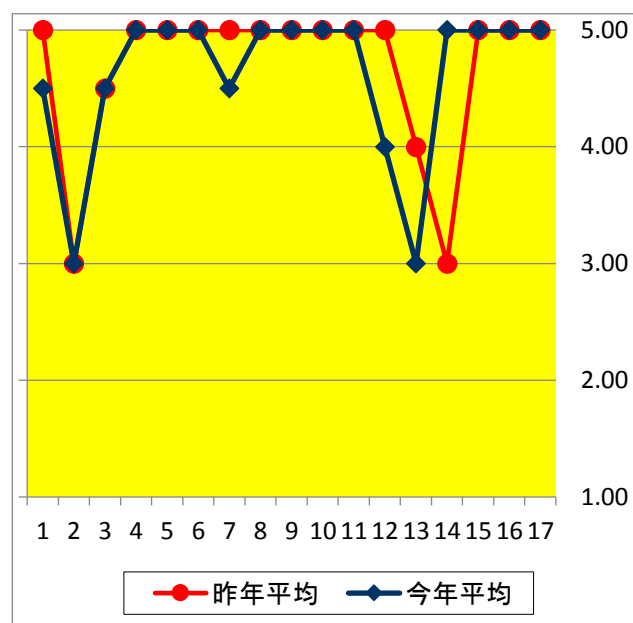
受講生間で講義中の進度に幅があることについて、引き続き全体で一定の進捗となるように丁寧に配慮し、時間を要している受講生には講師が個別にフォローするとともに、進度の早い受講生に対しては、少人数のグループ演習のメリットを活かし受講生間でも説明、フォローをすることで進度の早い受講生自身の理解をさらに深められるよう取り組む。

講義内容に関する既学習内容、受講生の要望を把握して、応用・実践的な事例等の演習課題を課して各人の理解程度に応じて適宜質疑に応じるよう努める。講義中の質疑について、少人数のグループ演習と発表の機会を何度か設け、グループ内で既学習内容や受講姿勢が前向き・受け身の者を混在させることにより、受け身の者にも課題に積極的に関与しやすい形式で進めることで、受講生に一定の満足度が確保されたように見受けられることから、今後も継続していきたい。

また、課題における事例の選定については、受講生が興味を持ちやすい事例、実践的な事例などを中心に選定して講義を行うよう対応をしていきたい。

科 目	プロフェッショナル・ソリューション ＜ソリューション・イン・エキスパートタイズ＞（松本クラス）			
配当年次	2	開講時限	秋水1	
受講者数	2	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.50	4・5	5	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.50	4.50	4・5	5	4
4	5.00	5.00	5	5	5
5	5.00	5.00	5	5	5
6	5.00	5.00	5	5	5
7	5.00	4.50	4・5	5	4
8	5.00	5.00	5	5	5
9	5.00	5.00	5	5	5
10	5.00	5.00	5	5	5
11	5.00	5.00	5	5	5
12	5.00	4.00	3・5	5	3
13	4.00	3.00	1・5	5	1
14	3.00	5.00	5	5	5
15	5.00	5.00	5	5	5
16	5.00	5.00	5	5	5
17	5.00	5.00	5	5	5
回答者数	2	2			



受講生の傾向

受講生の数が2名だったため数値の平均や最頻値には意味がないが、授業参加度（項目12）は比較的高く積極的な演習への参加が認められる。また演習のための予習時間（項目13）は減ったものの、復習（項目14）時間が2時間以上確保できており非常に熱心に演習に参加していたことが判る。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

履修生の希望により、ケース分析を行う形態とした。演習時間中に、日本の粉飾決算とそれに伴って公認会計士に対して懲戒がなされたケースと、アメリカの同様のケースについて、それぞれの受講者に分析させ、その結果を経過的に報告させた。演習時間においては、それらレポートの経過報告に対して形式面と実質面からその場で随時指導を行い、充実したレポートの作成に努めた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

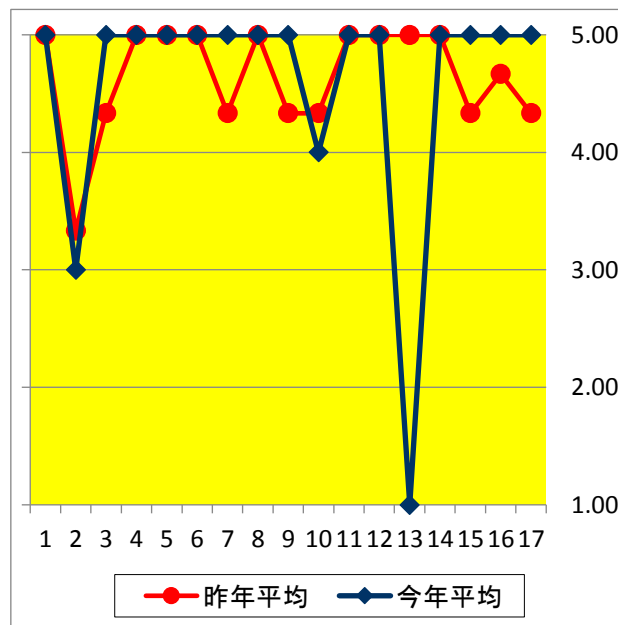
記述指導を必要とする学生について、演習中の課題への解答を別途添削指導する形で論文作成能力を高めるようにしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

毎年、受講生の演習に求める希望内容が異なるため、演習開始前に予め希望を聴取しておく必要がある。

科目	論文指導(実践) ＜論文指導・修士論文(実践)＞(中村クラス)		
配当年次	2	開講時限	通年月1
受講者数	1	回答者数	1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	5.00	5	5	5
2	3.33	3.00	3	3	3
3	4.33	5.00	5	5	5
4	5.00	5.00	5	5	5
5	5.00	5.00	5	5	5
6	5.00	5.00	5	5	5
7	4.33	5.00	5	5	5
8	5.00	5.00	5	5	5
9	4.33	5.00	5	5	5
10	4.33	4.00	4	4	4
11	5.00	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	5.00	1.00	1	1	1
14	5.00	5.00	5	5	5
15	4.33	5.00	5	5	5
16	4.67	5.00	5	5	5
17	4.33	5.00	5	5	5
回答者数	3	1			



受講生の傾向

受講生は1名であり、アメリカ法を参考にした立法論による研究を行う真面目な学生であった。従って、質問No.13の結果は「1」となっているが、これは明らかに誤りであると考え。なぜなら、受講生は毎回、報告レジュメを作成し、授業に臨んでいたからである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

まず、受講生に第一回講義にて研究計画書を提出させ、研究スケジュールを意識させた。次に、当該受講生は外書購読の経験がなかったことから、第2回講義から春学期期間中、論文指導を通じて外書購読の授業と同様の指導を実施した。なお、当該受講生は、研究テーマを途中で変更することはなかった。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

研究の進捗管理に関して、研究計画書を作成させることは有効と考えられるので、今後も継続したい。あと、受講生に対し、途中で研究テーマを変更するリスクについて、きちんと理解させておくことが研究の進捗管理において大切であろう。

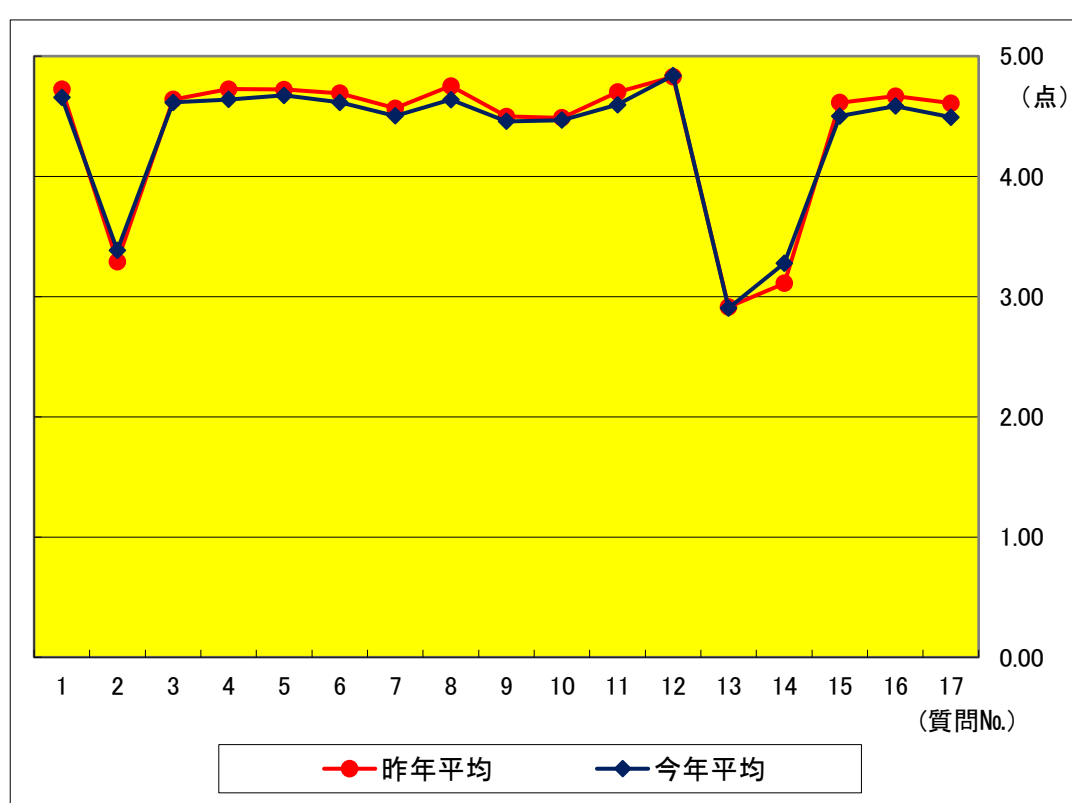
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

本大学院のカリキュラム上、受講者が比較法研究を採用した場合、外書購読の授業と同様の指導を授業内で実施せざるを得ない。当該指導は一定程度の時間を要することから、そのスタートが重要となる。できる限り、春学期の早い時点から実施できるよう取り進めたい。

Ⅲ－(3)．2019 年度授業評価アンケート総括

総 括

質問No.	昨年平均	今年平均
1	4.72	4.66
2	3.29	3.39
3	4.64	4.62
4	4.73	4.64
5	4.72	4.67
6	4.69	4.62
7	4.57	4.50
8	4.75	4.64
9	4.50	4.46
10	4.49	4.47
11	4.70	4.60
12	4.83	4.84
13	2.91	2.90
14	3.11	3.28
15	4.61	4.50
16	4.67	4.59
17	4.61	4.49
回答者数	705	708



授業評価アンケートを分析した結果、関西大学会計専門職大学院における今年度(2019年度)の授業は、全体として受講生から高い評価を得たことが明らかになった。いくつかの項目では昨年度(2018年度)の評価からはわずかに低下しているが、全体としては高い評価を得たと考えられる。個別の質問項目の分析結果は以下の通りである。

質問項目1(授業内容と授業計画の整合性)に関する今年度の評価は平均4.66であり、昨年平均4.72をわずかに下回った。次に、質問項目2(授業の進度)に関する今年度の評価は平均3.39であり、昨年平均(3.29)を上回った。

質問項目3(教員による授業準備)に関する今年度の評価は、平均4.62であり、昨年度平均(4.64)よりもわずかに低下した。したがって、授業計画と授業内容との整合性については、わずかな低下傾向がみられるとともに、授業進度が早いと感じる学生も昨年度よりも増加した。しかしながら、全体としては進度が「ちょうど良い」とされる評価に近く、他項目の評価も安定して高いため、現在の授業方法を変更する必要はないと考えられる。また、教員による授業準備も、受講生からの高い満足を引き出すことができた。

質問項目4(教員の熱意)に関する今年度の評価は平均4.64であった。また、質問項目5(教員の話し方)に関する今年度の平均は4.67であった。これらの評価も昨年度からわずかな減少が見られるが、全体としては十分に高い評価である。そのため、これらの評点で示された講義中における教員の熱意、および教員の説明に対する学生の満足度は、昨年度に引き続き安定して高いといえる。

質問項目6(教科書・配付資料の適切さ)に関する今年度の評価は平均4.62であり、昨年度平均を若干下回った。質問項目7(機材利用の適切さ)に関する今年度の評価は平均4.50であり、昨年度平均をわずかに下回った。しかしながら、これらの評価の減少度は非常に小さいため、全体としては、教員が指定したテキスト、配付資料、および機材利用について、昨年度と同様に受講生が満足していることが明らかになった。

質問項目8(質問への対応)に関する今年度の評価は、平均4.64、質問項目9(宿題および小テストの効果)に関する今年度の評価は平均4.46であり、いずれも昨年平均をわずかに下回った。ただし、低下した程度はわずかであるため、受講生は教員による質問対応、および教員による宿題および小テストの実施に納得していると考えられる。また、質問項目10(クラス規模)に関する今年度の評価は、平均4.47であり、昨年度よりもわずかに下回った。

以上のアンケート結果と整合して、質問項目11(全体としての授業の満足度)に関する今年度の評価は平均4.60であり、昨年度平均からはわずかに減少しながらも、安定して高い評価を得た。したがって、教員による授業改善は、全体として問題が少なくと考えられる。

質問項目12(出席状況)に関する評点は平均4.84であった。したがって、受講生の出席率は、昨年度よりも若干改善した。また、質問項目13(予習)の回答は、今年度平均が2.90、および質問項目14(復習)の回答は今年度平均が3.28であった。したがって、受講生による予習時間はわずかに減少したものの、復習時間は昨年度よりも大きく増加しており、学習意欲の高い受講生が増加したと考えられる。

質問項目15(講義による触発)に関する今年度の評価は平均4.50であった。質問項目16(職業会計人としての知識の増加)に関する今年度の評価は平均4.59であった。さらに、質問項目17(全体としての授業の理解度)に関する今年度の評価は平均4.49であった。これらの評価結果は、いずれも昨年度を下回っているが、全体としては高いと考えられる。

したがって、本年度におけるFDの取り組みは概ね高い評価を得た。次年度も本年度の取り組みを継続することが重要であると考えられる。

IV. 講演会

2019 年度 関西大学会計研究科講演会開催一覧

■客員教授講演会（新入生指導行事）

[2019 年 4 月 3 日(水)開催]

◇中央大学大学院フェロー／IFRS 財団・日本アラムナイ・ネットワーク会長

藤沼亜起氏(客員教授)

演題「目指そう・挑戦しよう 将来性のある会計プロフェッションへの道」

■客員教授講演会

[2020 年 2 月 20 日(木)開催]

◇東洋大学教授、慶応義塾大学名誉教授

竹中平蔵氏(客員教授)

演題「新展開する第4次産業革命と日本経済」

関西大学大学院会計研究科（会計専門職大学院）

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

電話 (06)6368-1121 (代表)

Fax (06)6368-0248